

Canon

# POWER SX50 PROJECTOR

## 使用説明書



**AISYS**  
Aspectual Illumination  
System

ご使用前に、必ずこの使用説明書をお読みください。  
特に「安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。  
またお読みになった後、この使用説明書をいつでも見られる場所に保管してください。

本製品は日本国内用に設計されております。  
電源電圧の異なる外国ではご使用になれません。

JPN

# パワープロジェクター SX50の特長

キヤノン製品のお買い上げ、誠にありがとうございます。

パワープロジェクター SX50 (以下、本プロジェクター)は、SXGA+(1400×1050ドット)の高解像度にリアル対応した高性能、小型軽量(3.9kg)のプロジェクターです。  
新開発のキヤノン独自の光学エンジン・AISYS搭載により、コンピューターのデータや、DVDの動画などを高精細に投写することができます。

## 主な特長

### 高精細、高画質

- キヤノン独自の光学エンジン・AISYS搭載により、高解像・高輝度・高コントラスト化と、クラス最軽量の小型化を実現しています。
- 高画素反射型液晶パネルの採用により、ドット感の少ないなめらかな美しい描写を実現しています。
- 明るい場所でも見やすい2500ルーメンを実現しています。
- SXGA+にリアル対応し、従来機種より、高画質に広領域表示を実現しています。

### 設置の自由度が高く、調整が簡単

- 非球面レンズを採用したクラス最高水準倍率の1.7倍ズームレンズを搭載することにより、3mから5mで100インチの大画面投写を実現しています。
- 新方式の調整脚で、上下方向の設置角度が簡単に調整できます。
- 『縦横キーストーン調整機能』で、斜め方向からでも台形歪みのない投写を行うことができます。
- 『オートPC調整機能』で、接続されたコンピューターに応じた最適な設定を自動的に行うことができます。
- 簡単操作メニューで、画質の調整や各種機能の設定を簡単に行うことができます。

### きめ細かい画質調整と便利な機能

- sRGBに対応した映像をはじめ、コンピューターやDVDなどの様々な映像ソースを最適な画質で投写可能な、4つの『イメージモード』を備えています。
- 黒板(深緑色)へ最適な状態で投写を行うことができます。
- 『6軸色調整機能』で、きめ細かく高度な色調整を行うことができます。
- 『記憶色補正機能』で、人の記憶にある色を鮮やかに表現できます。
- 『ダイナミックガンマ機能』で、最適な階調特性の設定を自動的に行うことができます。
- 起動時や待機中に表示するロゴや画面をお好みでカスタマイズできます。
- パスワード機能を搭載し、セキュリティに配慮しています。
- コンパクトで使いやすいワイヤレスリモコンが付属しています。
  - ・プロジェクター機能の全ての操作が可能。
  - ・投写中のコンピューター画面でのマウス操作が可能。
  - ・光るスイッチで、暗い場所でも優れた操作性を実現。
- ワイヤレスリモコンには、プレゼンテーションを支援する便利な機能が備わっています。
  - ・見たい部分の自由な拡大、縮小が可能な『デジタルズーム』(倍率表示可能)
  - ・プレゼンテーション中に特定部分を示す『スポットライト』
  - ・プレゼンテーションの経過時間を知らせる『P-TIMER』
  - ・投写画面を一時的に消す『NO SHOW』

## 著作権についてのご注意

本プロジェクターを営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において画面サイズ切換え機能等を利用して画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

- Microsoft、Windows、Windows Me、Windows 2000、Windows XPは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- XGA、SXGA、SXGA+、UXGAは、米国IBM Corporationの登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップルコンピューター社の商標です。
- その他の社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

# インデックスの見かた

## 最初に必ずお読みください

安全に関する重要な内容が説明されています。

安全にお使いいただくために

## プロジェクターを準備する

各部の名前が説明されています。

必ずお読みください。

お使いになる前に

## プロジェクターを設置する

プロジェクターの設置のしかたが説明されています。

必ずお読みください。

プロジェクターを設置する

## コンピューターの画像を投写したい

コンピューターの画像を投写するときの手順が説明されています。

コンピューターの画像を投写する

## プレゼンテーションで使える機能を覚える

投写中に使用できる便利な機能が説明されています。

必要なときにお読みください。

投写中に使える便利な機能

## AV機器の画像を投写したい

デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、AV機器の映像を投写するときの手順が説明されています。

AV機器の映像を投写する

## メニュー機能を調べる

メニューに並ぶ機能が1つずつ説明されています。

目的に応じて調べることができます。

メニューによる機能設定

## プロジェクターのお手入れをする

プロジェクターの清掃のしかたや、消耗品の交換手順などが説明されています。

日常のお手入れ

## 問題が起こったとき

問題が起こったときの対処のしかたが説明されています。

問題が起こったときにお読みください。

困ったときには

# 使用説明書の読みかた／表記について

## 使用説明書について

### 使用説明書

本プロジェクターの使いかたが詳しく説明されています。本プロジェクターを安全にお使いいただくため、また本プロジェクターの機能を十分に活用していただくため、お使いになる前によくお読みください。

### クイックスタートガイド(別紙)

本プロジェクターを使ってプレゼンテーションを行うための作業の流れが一目でわかります。

## ボタン操作を表す記号


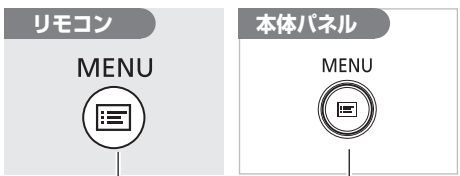
本プロジェクターは、付属のリモコンまたは本体の操作パネルのボタンを使って操作します。リモコンではプロジェクターのすべての機能をご使用になれますが、本体の操作パネルではよく使う機能だけを使用することができます。

なお、ボタンの操作は、ボタンのイメージで表し、リモコンのボタンは 、本体の操作パネルのボタンは  の中に記載しています。

各操作の先頭では、その操作で説明しているボタンの位置を図で説明しています。

**1** **【MENU】ボタンを押す。**  
メニューウィンドウが表示されます。

- メニューを消す場合は、もう一度【MENU】ボタンを押します。



本体の操作パネルのボタンを表します。  
リモコンのボタンを表します。

## 説明の内容を表す記号

本文中マークがついた欄は、それぞれ次のような内容となっています。



操作上の注意事項や制限事項が記載されています。



操作上知っておいていただきたい事や参考になる事が記載されています。

# 目次

インデックスの見かた	3	メニューによる機能設定	49
使用説明書の読みかた／表記について	4	メニューの使いかた	49
目次	5	表示設定メニュー*で映像信号を調整・設定する	52
安全にお使いいただくために	6	イメージ調整メニュー*で画質を調整する	62
		システム設定メニュー*で機能を設定する	69
お使いになる前に	14		
付属品はそろっていますか	14	日常のお手入れ	75
各部のなまえ	15	プロジェクターを清掃する	75
		エアフィルターの清掃と交換	76
プロジェクターを設置する	20	ランプを交換する	77
コンピューターの画像を投写する	23	困ったときには	79
コンピューターに接続する	23	WARNINGランプの見かた	79
投写を始める	26	困ったときのアドバイス	80
画面を調整する	30		
投写を終える	35		
パワーマネジメントモードを設定する	36		
投写中に使える便利な機能	37	付録	84
画像を一時的に消す	37	対応信号形式	84
画面を拡大/縮小する	38	画面サイズと投写距離の関係	85
経過時間を表示する	39	メニューの構成	86
スポットライトで位置を示す	39	用語集	88
静止画にする	40	製品の仕様	89
音を一時的に消す／調節する	40	保証とアフターサービス	91
リモコンでマウス操作する	41		
AV機器の映像を投写する	42		
AV機器に接続する	42		
投写を始める	44		
画面を調整する	48		

\*表示設定メニュー、イメージ調整メニュー、システム設定メニューは各扉ページに詳しい目次があります。

# 安全にお使いいただくために

## 安全上の注意を表す記号

この使用説明書で使用しているマークについて説明します。本書では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。これらの記載事項は必ずお守りください。



### 警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



### 注意

この表示を無視して取扱いを誤った場合に、傷害または物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



### 感電注意

⚠の記号は、注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。⚠の中に具体的な注意内容が描かれています（例の記号は感電注意を表します）。



### 分解禁止

🚫の記号は、行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。🚫の中に具体的な禁止内容が描かれています（例の記号は分解禁止を表します）。



### プラグをコンセントから抜く

🔌の記号は、行わなければならない行為を示しています。🔌の中に具体的な指示が描かれています（例の記号は電源プラグをコンセントから抜く指示を表します）。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 使用上のご注意

安全に関する重要な内容ですので、ご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

### 警告



警告



電源プラグをコンセントから抜け

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音ができるなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



警告

- 使用中はレンズをのぞかないでください。強い光が出ていますので、目を傷めるおそれがあります。とくに小さなお子様にはご注意ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜け

- 万一本機の内部に水などが入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



警告



電源プラグをコンセントから抜け

- 万一異物が本機の内部に入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。とくにお子様にはご注意ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜け

- 画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて修理を販売店にご依頼ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜け

- 万一、本機を倒したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止



感電注意

- 本機のキャビネットは外さないでください。内部には電圧の高い部分および温度の高い部分があり、感電ややけどの原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



禁止



水ぬれ禁止

- 本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

## 警告



禁止

- 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



風呂、シャワーでの  
使用禁止

- 風呂、シャワー室では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機に水が入ったり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



禁止

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。またコードを釘などで固定しないでください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物で覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードが傷んだら、(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- コンセント付き延長コードを使う場合は、つなぐ機器の消費電力の合計が延長コードの定格電力を超えない範囲でお使いください。超えて使用すると電源コードが発熱し、火災の原因となります。
- 電源プラグとコンセントは定期的に点検し、プラグとコンセントの間にたまったホコリ・ごみ・汚れなどを取り除いてください。それらがたまって湿気を帯びると、火災の原因となります(結露するところや水槽の近くに特に注意してください)。



禁止

- ご使用中は吸気口・排気口の中のファンが回転しています。これらの穴から物などを差し込まないでください。事故や故障の原因となります。特にお子様にはご注意ください。



## 警告



接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



禁止

- 本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。とくにお子様にはご注意ください。
- 本機や付属の接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。火災・けがの原因となります。



禁止

- 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

安全にお使いいただくために

## ⚠ 電池の取扱いに関する注意 [リモコン使用時]



### 警告

電池を取扱う際は次のことをお守りください。

守られない場合、破裂、発熱、発火、漏液の原因になります。

- 火の中に入れたり、加熱、ショート、分解したりしないでください。
- 乾電池は充電しないでください。



禁止



### 注意

電池を取扱う際は次のことをお守りください。

守られない場合、破裂、発熱、発火、漏液の原因になることがあります。

- 電池を使いきったときや、長時間使用しないときは電池を取りはずしてください。
- 電池を交換するときは2本いっしょに交換してください。また、種類の違う電池をいっしょに使用しないでください。
- +と-の向きを正しく入れてください。
- 万一、液漏れなどで内部の液体が体についたときは、水でよく洗い流してください。



禁止

## 注 意



禁止

- 電源コードを細かく折り曲げたり、巻いたり、束ねたまま使用しないでください。放熱しにくくなり、発熱やショートを起こし、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードや接続ケーブルを床の上にはわせないでください。足を引っ掛けて転倒して、けがの原因となることがあります。



禁止

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 内部の温度上昇を防ぐため、冷却用のファンを内蔵しています。ご使用の時は、ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。  
 設置のときは、ファンの排気口を壁から1メートル以上あけてください。空調設備の排気ダクト付近などに設置しないでください。  
 次のような使い方はしないでください。  
 \* 横倒しなど、指定以外の方向への設置。  
 \* 押し入れ、本箱など風通しの悪い狭いところに押し込む。  
 \* じゅうたんや布団の上に置く。  
 \* テーブルクロスなどを掛ける。  
 また、壁など、周囲のものから1メートル以上はなし、風通しをよくしてください。



注意

- キャスター付き台に本機を設置する場合には、キャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

- 本機の上に重い物をのせたり、乗らないでください。特に小さなお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

## 注 意



禁止

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



電源プラグを  
コンセントから抜け

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなどを外したことを確認の上、行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを  
コンセントから抜け

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



電源プラグを  
コンセントから抜け

- 長期間、機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



注意

- 長年のご使用で内部にほこりがたまると火災や故障の原因となることがあります。掃除は梅雨の前が効果的です。費用などは販売店にご相談ください。

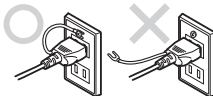


注意



アース線を  
接続する

- 電源コードのアース線を、必ずアースに接続してください。アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。またアース線を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。



## ランプについての安全上のご注意

安全にお使いいただくために

本プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。  
この水銀ランプは次のような性質を持っています。

- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりします。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間はそれぞれのランプで大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- ランプは使用時間の経過による劣化などで、次第に暗くなります。
- ランプ交換の指示（WARNING ランプが2回点滅）が出たら、破裂の可能性が高くなっているため、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 万が一、ランプが破裂した場合に生じたガスを吸い込んだり、目や口に入らないように、ご使用中は排気口に顔を近づけないでください。



### ランプが破裂した場合

プロジェクター内部にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスや粉じんが排気口から出たりすることがあります。ランプ内部のガスには水銀が含まれています。破裂した場合は窓や扉を開けるなど部屋の換気を行ってください。万一吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。

ランプが破裂した場合、プロジェクター内部にガラス片が散乱している可能性があります。キヤノンお客様相談センターへプロジェクター内部の清掃とランプの交換、プロジェクター内部の点検をご依頼ください。



### 使用済みランプを捨てる時

プロジェクターの水銀ランプを捨てる時は、蛍光灯と同じ取り扱いで、各自治体の条例に従って行ってください。

## 持ち運び／輸送時のご注意

本プロジェクターは精密機器です。衝撃を与えたり、倒したりしないでください。故障の原因となります。持ち運ぶときは、レンズの保護のためにレンズキャップをはめ、次の『付属キャリーバッグの使用上のご注意』をよくお読みになり、正しく持ち運んでください。車両・航空機などを利用し持ち運んだり、輸送したりする場合は、耐衝撃性の高い輸送用ケースをご使用ください。

## 付属キャリーバッグの使用上のご注意

付属のキャリーバッグはプロジェクターを持ち運ぶとき、ホコリ等による汚れの防止と、キャビネット表面保護のためのものです。キャリーバッグはプロジェクターを外部からの衝撃から保護するように設計されていません。キャリーバッグに入れて持ち運ぶとき、衝撃を与えたり、落としたり、またはキャリーバッグに入れたプロジェクターの上にもものを置かないでください。破損の原因になります。プロジェクターをキャリーバッグで輸送しないでください。破損の原因となります。

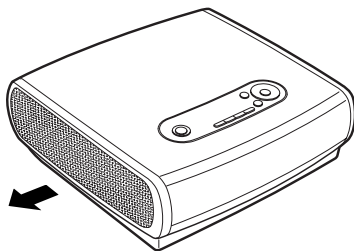
## 設置のときのご注意

本プロジェクターの左右、後ろ、上方は、壁などから1m以上離して設置してください。

### 排気口の温風にご注意ください

排気口からは温風が吹き出します。温風の当たる所に次のものを置かないでください。

- ・ スプレー缶を置かないでください。熱で缶内の圧力が上がり、爆発の原因となります。
- ・ 金属を置かないでください。高温になり、事故やけがの原因となります。
- ・ 観葉植物やペットを置かないでください。
- ・ 熱で変形したり、悪影響を受けるものを置かないでください。
- ・ 排気口付近には視聴席を設けないでください。



熱で変形や変色の恐れのあるものを上に置かないでください。また、動作中排気口周辺ならびに排気口上部のキャビネットが高温になります。手で触れたりしないでください。やけどの原因になります。特に小さいお子さまにはご注意ください。

### こんな場所には設置しないでください

湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所には設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因になります。また、高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因になります。

使用温度範囲 5℃～35℃

保管温度範囲 -10℃～60℃

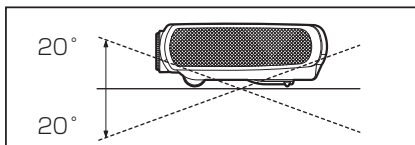
### 結露にご注意

低温の場所から高温の場所へ急に持ち込んだときや、部屋の温度を急に上げたとき、空気中の水分が本機のレンズやミラーに結露して、画像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の画像が映るまでお待ちください。

### 正しい方向に設置してください

本プロジェクターは正しい方向に設置ください。誤った方向に設置すると、故障や事故の原因となります。

- 上下方向への傾きは各20°以内としてください。
- 上向きに設置して投写しないでください。
- 下向きに設置して投写しないでください。
- 横に立てて設置して投写しないでください。



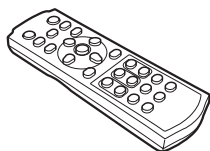
🔊 本プロジェクターを20°以上傾けて設置すると故障する恐れがあります。

# お使いになる前に

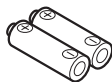
## 付属品はそろっていますか

プロジェクター本体のほかに、次の付属品がそろっていることを確かめてください。

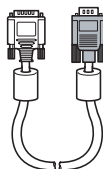
- リモコン



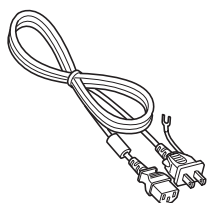
- リモコン用乾電池 (単4形2本)



- コンピューター接続ケーブル (1.8m) (DVI/ミニ D-sub15ピン用)

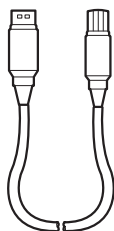


- 電源コード (2m)

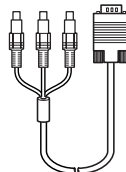


アース線にはキャップが付いています。

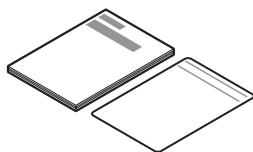
- USBケーブル (1.8m)



- コンポーネントケーブル (RCA/ミニ D-sub15ピン用) (0.4 m)



- 使用説明書
- クイックスタートガイド
- 保証書



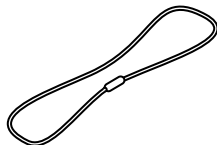
- キャリーバッグ (P12)



- レンズキャップ



- レンズキャップ用のひも



レンズキャップはひもを使って本体とつなぎます。レンズキャップ取り付け手順は90ページを参照してください。

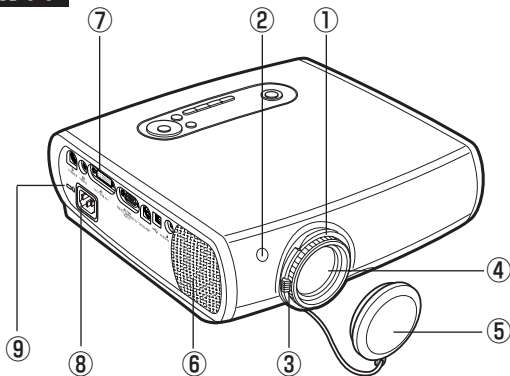


- 本プロジェクターを使用しないときは、ホコリやキズからレンズを守るため、レンズキャップをはめてください。

# 各部のなまえ

## プロジェクター本体

### 前面



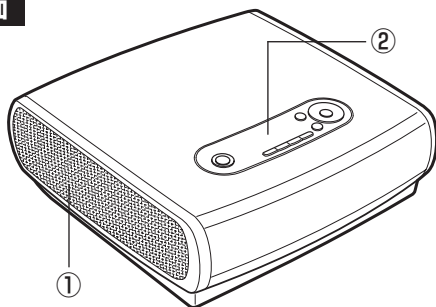
- ①フォーカスリング (P30)
- ②リモコン受光部 (P16)
- ③ズームレバー (P30)
- ④レンズ
- ⑤レンズキャップ



投写の際には必ず外してください。キャップを付けたまま投写すると、キャップの変形や火災の原因となります。

- ⑥スピーカー
- ⑦入力端子 (P19)
- ⑧電源コード接続部 (P19)
- ⑨盗難防止ロック穴

### 背面



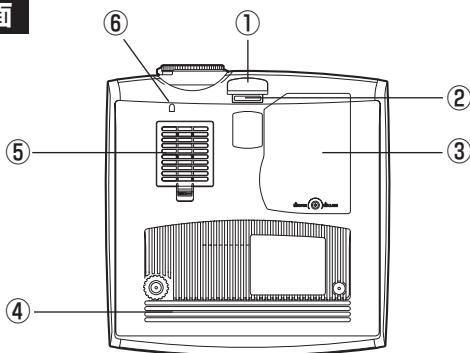
- ①排気口



排気を妨げないようにしてください。故障や火災などの原因となります。

- ②操作パネル (P18)

### 底面



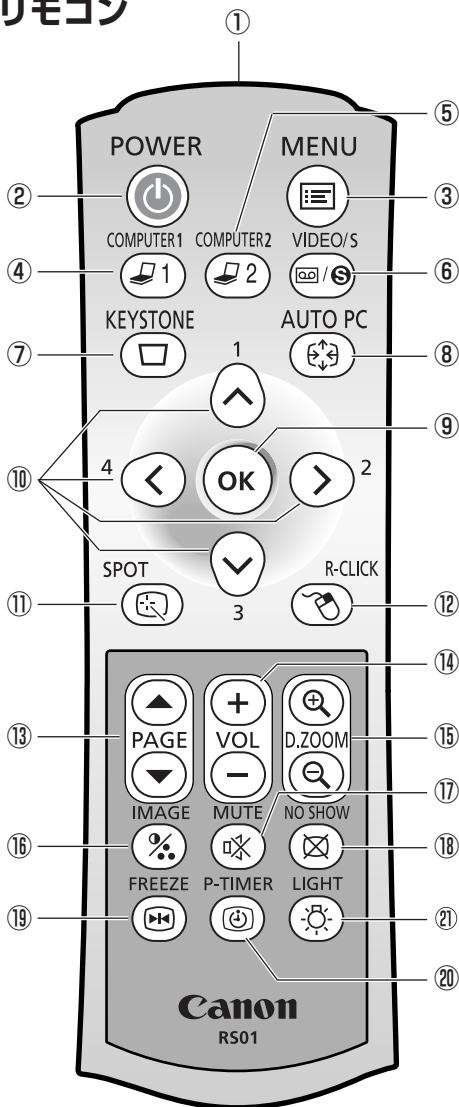
- ①調整脚ロックボタン (P22)
- ②調整脚 (P22)
- ③ランプカバー (P77)
- ④吸気口
- ⑤エアフィルター (P76)
- ⑥レンズキャップ取り付け穴



吸気を妨げないようにしてください。故障や火災などの原因となります。

# リモコン

お使いになる前に



## ① リモコン発光部

リモコンの信号を本体に送ります。

## ② POWER ボタン (P27、45)

電源の入/切を行います。

## ③ MENU ボタン (P50)

メニューを表示します。

## ④ COMPUTER-1 ボタン (P28、46)

DVI-I/RGB IN-1 端子からの入力画像に切り換えます。

続けてボタンを押すと、入力信号(デジタルRGB、アナログRGB-1)を順に選べます。

## ⑤ COMPUTER-2 ボタン (P28、46)

RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子からの入力画像に切り換えます。

続けてボタンを押すと、入力信号(アナログRGB-2、コンポーネント映像)を順に選べます。

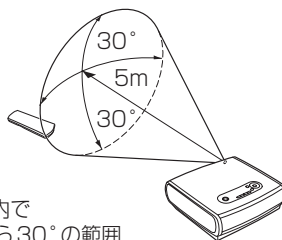
## ⑥ VIDEO/S ボタン (P46)

VIDEO IN 端子またはS-VIDEO 端子からの入力画像に切り換えます。

続けてボタンを押すと、入力信号(コンポジット映像、S映像)を順に選べます。

## リモコンで操作できる範囲

リモコンは本体の受光部から5m以内、30°の範囲から操作してください。



次の場合は、リモコンが操作できないことがあります。

- 本体との間に障害物がある。
- 本体の受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとき。



● 本体の操作は、このリモコンですべて行うことができます。

● このリモコンは、赤外光を使用しています。

● 2台のプロジェクターを使用する場合は、リモコンが干渉し合わないようチャンネル設定を切り換えることができます。(P72)



⑦ **KEYSTONE ボタン** (P31)

画面の台形ひずみを調整します。

⑧ **AUTO PC ボタン** (P29)

アナログRGB-1またはアナログRGB-2が選ばれているとき、オートPC機能が働き、コンピューターの信号に合わせてトラッキング、総ドット数、画面位置などが自動調整されます。

⑨ **OK ボタン** (P51)

メニューなどで選んだ項目を確定します。また、マウスの左ボタンと同じ働きをします (USB 接続時)。

⑩ **方向ボタン** (P50)

メニューなどで上下左右の方向を指定します。また、マウスカーソルの移動を指示します (USB 接続時)。

⑪ **SPOT ボタン** (P39)

スポットライト機能が働きます。

⑫ **R-CLICK ボタン** (P41)

マウスの右ボタンと同じ働きをします (USB 接続時)。

⑬ **PAGE ボタン**

コンピューターのページ送りと同じ働きをします (USB 接続時)。【▼】を押すと1ページずつ送り、【▲】を押すと1ページずつ戻せます。

⑭ **VOL ボタン** (P40)

音量調整を行います。【+】を押すと音量が上がり、【-】を押すと下がります。

⑮ **D.ZOOM ボタン** (P38)

デジタルズームで表示を拡大/縮小します。【+】を押すと拡大され、【-】を押すと縮小されます。

⑯ **IMAGE ボタン** (P34)

イメージモード (画質) を切り換えます。

⑰ **MUTE ボタン** (P40)

音声を一時的に消します。

⑱ **NO SHOW ボタン** (P37)

映像を一時的に消します。

⑲ **FREEZE ボタン** (P40)

映像を静止画にします。

⑳ **P-TIMER ボタン** (P39)

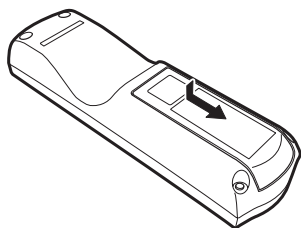
ボタンを押したときからの経過時間が表示されます (プレゼンテーションの時間管理に使用できません)。

㉑ **LIGHT ボタン**

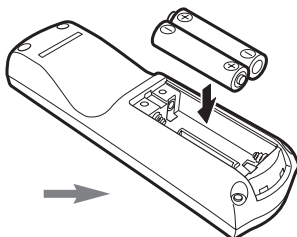
リモコンのボタンのライトの点灯/消灯を行います。

電池の入れかた

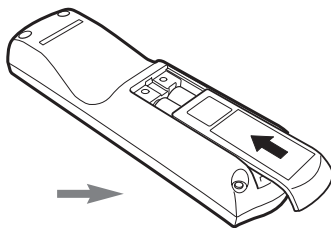
**1** 電池カバーを開く。  
押しながらスライドさせます。



**2** 電池を入れる。  
新しい単4形乾電池2本を+プラスと-マイナスに注意して入れます。

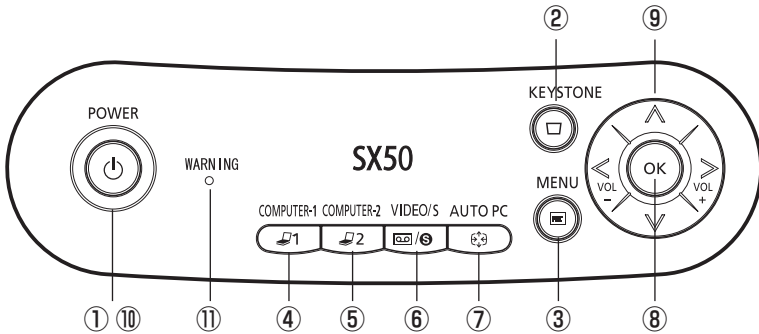


**3** 電池カバーを閉じる。



【LIGHT】 ボタンを押しても、リモコンのボタンが点灯しない場合や、リモコンでの操作ができない場合は、新しい電池と交換してください。

## 本体の操作パネル



① **POWER ボタン** (P27、45)  
電源の入/切を行います。

② **KEYSTONE ボタン** (P31)  
画面の台形ひずみを調整します。

③ **MENU ボタン** (P50)  
メニューを表示します。

④ **COMPUTER-1 ボタン** (P28、46)  
DVI-I/RGB IN-1 端子からの入力画像に切り換えます。  
続けてボタンを押すと、入力信号(デジタルRGB、アナログRGB-1)を順に選べます。

⑤ **COMPUTER-2 ボタン** (P28、46)  
RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子からの入力画像に切り換えます。  
続けてボタンを押すと、入力信号(アナログRGB-2、コンポーネント映像)を選べます。  
また、メニューの設定でアナログRGB出力端子としても使用できます。

⑥ **VIDEO/S ボタン** (P46)  
VIDEO IN 端子またはS-VIDEO 端子からの入力画像に切り換えます。  
続けてボタンを押すと、入力信号(コンポジット映像、S映像)を選べます。

⑦ **AUTO PC ボタン** (P29)  
アナログRGB-1 またはアナログRGB-2 が選ばれているとき、オートPC機能が働き、コンピューターからの信号に合わせてトラッキング、総ドット数、画面位置などが自動調整されます。

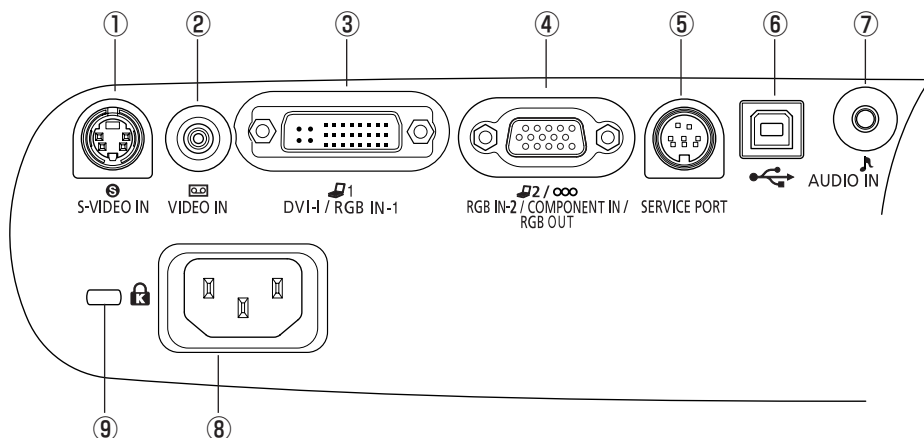
⑧ **OK ボタン** (P51)  
メニューなどで選んだ項目を確定します。

⑨ **方向ボタン** (P50)  
メニューなどで上下左右の方向を指定します。  
また、左ボタンで音量を下げ、右ボタンで音量を上げることもできます。

⑩ **POWER ランプ** (P27)  
プロジェクターの状態をランプの点灯で表します。  
赤く点灯 電源を入れることができます。  
赤く点滅 電源を切るための処理中(ランプの冷却中)です。  
緑に点灯 電源が入っている状態です。  
緑に点滅 電源を入れる処理中です。

⑪ **WARNING ランプ** (P79)  
プロジェクターの異常を赤いランプの点滅で表します。

## 本体の入力端子



### ① S-VIDEO IN 端子 (P42)

AV 機器からの S 映像信号の入力端子です。

### ② VIDEO IN 端子 (P42)

AV 機器からのコンポジット映像信号の入力端子です。

### ③ DVI-I / RGB IN-1 端子 (P23, 42)

コンピューターからのデジタル RGB 信号、アナログ RGB 信号の入力端子 (DVI 端子) です。

### ④ RGB IN-2 / COMPONENT IN / RGB OUT 端子 (P23, 42)

コンピューターからのアナログ RGB 信号、または AV 機器からのコンポーネント映像信号の入力端子 (ミニ D-sub 15 ピン) です。

また、メニューの設定でアナログ RGB 出力端子としても使用できます。

### ⑤ SERVICE PORT

サービスマン用の端子です。通常は使用しません。

### ⑥ USB 端子 (P41)

コンピューターのマウス操作をプロジェクターのリモコンで行うときに、USB ケーブルでコンピューターと接続します。

### ⑦ AUDIO IN 端子 (P24, 43)

コンピューターまたは AV 機器からの音声信号 (ステレオ) の入力端子です。

### ⑧ 電源コード接続部 (P26)

### ⑨ 盗難防止用ロック穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続できます。

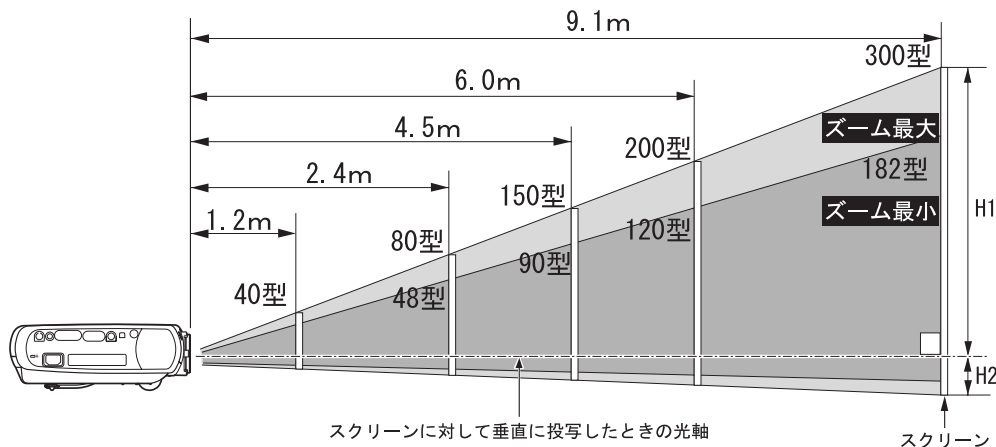
# プロジェクターを設置する

## スクリーンまでの距離を決める

投写したときの画面サイズは、プロジェクターのレンズからスクリーンまでの距離によって決まります。図を参考にして、目的の画面サイズになる設置場所を選んでください。

なお、画面サイズはレンズの周りのズームレバーで調整することができます。

H1:H2=9:1



H1、H2：スクリーンに対して垂直に投写したときの光軸を境にした上下の高さ

画面サイズ(型) (幅×高さcm)	40	60	80	100	150	182	200	250	300
投写距離(m) ズーム最大	2.0	3.0	4.0	5.0	7.5	9.1	—	—	—
投写距離(m) ズーム最小	1.2	1.8	2.4	3.0	4.5	5.5	6.0	7.6	9.1
H1 (cm)	55	82	110	137	206	250	274	343	411
H2 (cm)	6	9	12	15	23	28	30	38	46

- 投写距離は、約 1.2m～9.1m の範囲になるように設置してください。距離が近すぎた場合はピントが合わず、遠すぎた場合は画面が暗くなります。
- 表はスクリーン設定がノーマル(4：3)のときのサイズですが、投写内容などによっては実際に投写したサイズと異なる場合があります。

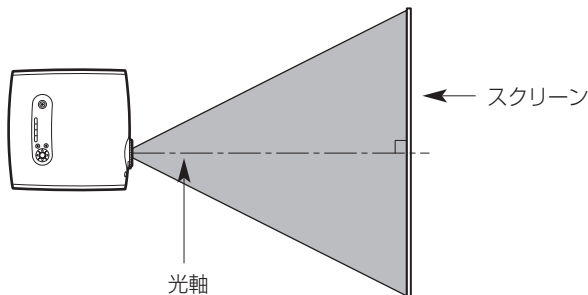


● 画面サイズと投写距離の関係の詳しい表はP85をご参照ください。

## 置き場所を決める

### スクリーンの正面に置く

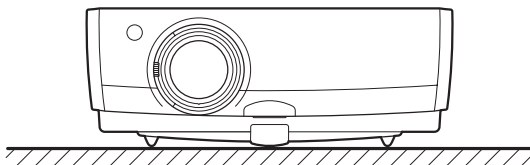
プロジェクターは、スクリーンに対してなるべく直角になるように設置してください。



- ある程度の傾きは、キーストーン調整で補正することができます。(P31)

### 水平な場所に置く

プロジェクターは、水平な場所に設置してください。



- 設置場所には、本体右側の排気口(ファン)、底面の吸気口(エアフィルター)をふさぐものがないことを確認してください。
- スクリーンには、太陽光線や照明が直接当たらないようにしてください。明るい部屋では、照明を落とすなどして部屋の明るさをやや落とすと見やすくなります。

## 天吊り／リア投写について

本プロジェクターは、天井から逆さに吊り下げて投写(天吊り)することや、透過型スクリーンを使用してスクリーン裏側から投写(リア投写)することができます。なお、天吊りやリア投写を行う場合は、投写する画像を上下、左右に反転させる必要があります。(P61)

- 天井から吊り下げる場合は、オプションの天吊り金具(品番:RS-CL01)が必要です。

## 画面の高さを調節する

プロジェクターの調整脚を使って、投写の角度を調整します。  
この調整は、コンピューターやAV機器を接続して投写した状態で行ってください。

1

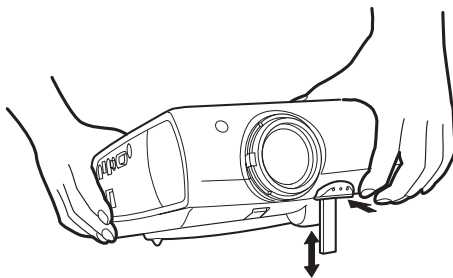
本体の前方を持ち上げて調整脚ロックを押し。

調整脚がバネの力で出てきます。

2

調整脚ロックを押しのまま、画面の高さを合わせてロックを放す。

調整脚が固定されます。



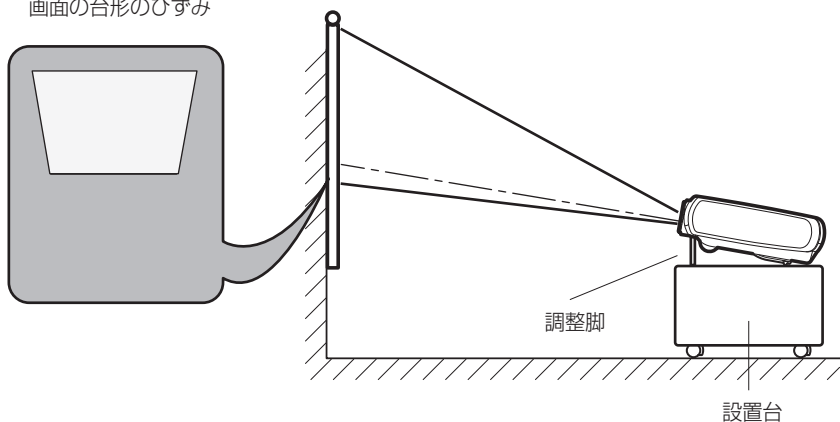
調整脚は最大10°まで上がります。プロジェクターの前後の傾きが±20度以内になるように設置してください。20°以上傾けると、ランプの故障の原因となります。

### 画面の台形ひずみが気になるとき

調整脚を上げすぎると、画面が台形にひずみます。ひずみが大きい場合は、本体の設置台の高さを調整してください。

なお、台形ひずみはキーストーン調整で補正することもできます。(P31)

画面の台形のひずみ



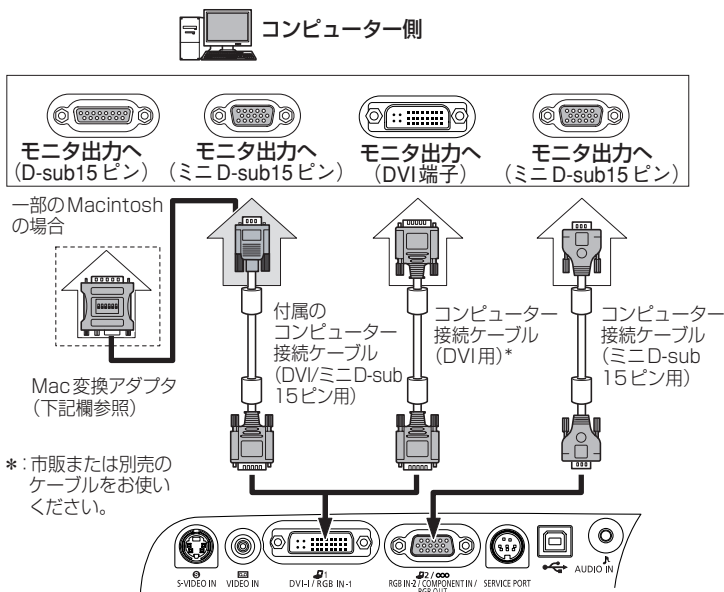
# コンピューターの画像を投写する

## コンピューターに接続する

プロジェクターとコンピューターを接続します。

### 映像端子につなぐ

- プロジェクターとコンピューターの両方の電源を切ってから接続してください。
- デジタルRGBで1280×1024ドットまたは1400×1050ドットの投写を行う場合、コンピューターやDVIケーブルの種類によっては画像が正しく投写されない場合があります。
- USB端子はリモコンのマウス制御用です。USBケーブルの接続では画面の投写はできません。



コンピューターによっては、変換アダプタが必要な場合があります。コネクタの形状が合わない場合は、コンピューターの使用説明書をご参照ください。

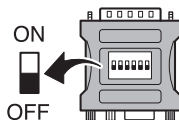
メニューの設定でモニター出力(アナログRGB)に切り換えることができます。(P69)

- 高精細な画像を高画質で投写するために、高性能ケーブルのご使用をお勧めします。

### Mac変換アダプタ(型番: LV-AD02 別売)について

モニタ出力がD-sub15ピン(標準)端子のMacintoshの場合は、Mac変換アダプタを使用してください。Macintoshのモードに合わせてアダプタのスライドスイッチ(1~6)を次のように設定します。

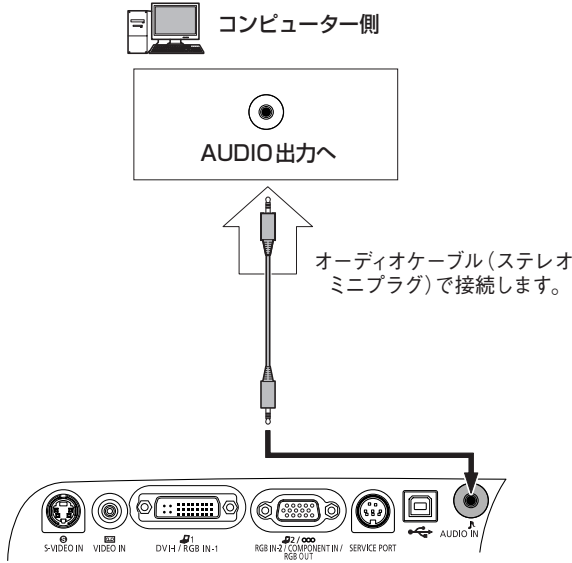
	1	2	3	4	5	6
13" MODE (640 × 480)	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
16" MODE (832 × 624)	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF
19" MODE (1024 × 768)	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF
21" MODE (1152 × 870)	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF



## 音声端子につなぐ

🔊 プロジェクターとコンピューターの両方の電源を切ってから接続してください。

必要に応じてオーディオケーブルをつなぎます。



- 📄 抵抗が内蔵されていないオーディオケーブルをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- 内蔵スピーカーはモノラル出力です。
- スピーカーからはオーディオケーブルの接続されている機器の音声が出力されます。

## ノートパソコンの画像を投写する場合

ノートパソコン側で外部モニターへの出力がオフに設定されていると、画像は投写されません。外部モニターへの出力は、パソコンのキーボードのFnキーを押しながら [LCD] または [VGA] が表記されたファンクションキーを押すとオンにできます。

パソコンメーカーとキー操作の例は下表のとおりです。

FUJITSU	全シリーズ	[Fn] + [F10]	HITACHI	全シリーズ	[Fn] + [F7]
SONY	全シリーズ	[Fn] + [F7]	COMPAQ	PRESARIO	[Fn] + [F7]
Panasonic	全シリーズ	[Fn] + [F3]		ARMADA	[Fn] + [F4]
SHARP	全シリーズ	[Fn] + [F5]	DELL	全シリーズ	[Fn] + [F8]
TOSHIBA	全シリーズ	[Fn] + [F5]	GATEWAY	全シリーズ	[Fn] + [F3]
NEC	全シリーズ	[Fn] + [F3]	SOTEC	全シリーズ	[Fn] + [F3]
IBM	全シリーズ	[Fn] + [F7]	akia	全シリーズ	[Fn] + [F2]

- 📄 表に記載されていない機種については、コンピューターの使用説明書をご参照ください。



## コンピューターの出力解像度を決める

本プロジェクターの表示性能を発揮するために、コンピューターの出力信号の解像度を最適な設定に調整してください。コンピューター側の解像度の設定が低いと高画質の投写画像が得られません。

解像度の調整方法は次のとおりです。

### Windows XPの場合

1. [スタート]メニューを開き、[コントロールパネル]を選びます。
2. コントロールパネル画面の[画面]アイコンをダブルクリックし、画面のプロパティ画面を表示します。
3. [設定]タブを選び、[画面の解像度]のスライダを移動して「1400 × 1050ピクセル」を選びます。この設定がない場合は、1400 × 1050以下で一番大きな解像度を選びます。
4. [OK]ボタンをクリックします。



### Macintosh OSXの場合

1. アップルメニューを開き、[システム環境設定]を選びます。
2. システム環境設定ウィンドウの[ディスプレイ]アイコンをクリックし、ディスプレイの画面を表示します。
3. [ディスプレイ]タブを選び、[解像度]の一覧から「1400 × 1050」を選びます。この設定がない場合は、1400 × 1050以下で一番大きな解像度を選びます。
4. ウィンドウを閉じます。



- 設定した解像度の縦横比（1400 × 1050の場合は4 : 3）に合わせてスクリーン設定を行ってください。（P33）
- ただしコンピューターの解像度をSXGA（1280 × 1024）またはWXGA（1360 × 768）にしたときは、スクリーン設定を[リアル]にしてください。

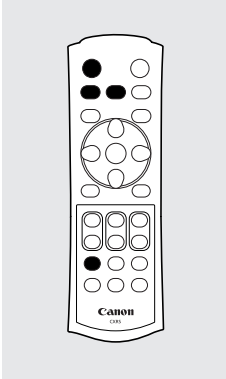
# 投写を始める

## 電源コードをつなぐ

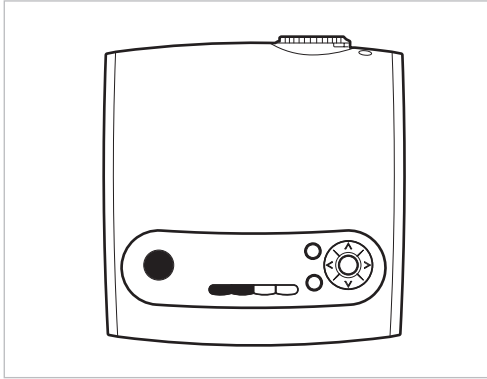
🔊 コンピューターと接続してから、電源コードをつないでください。

### ここで使うボタン

《リモコン》



《本体パネル》



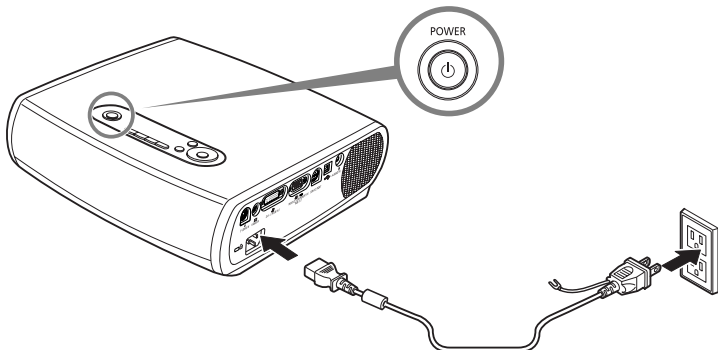
電源コードをつなぎ、プロジェクターの電源を入れます。

1

電源コードを本体の接続部に差し込む。  
コネクタは奥までしっかりと差し込んでください。

2

電源プラグをACコンセントに差し込む。  
[POWER] ランプが赤く点滅し、電源を入れる準備ができると点灯に変わります。





注意

### アース端子を設置してください

機器を安全にご使用いただくために、電源プラグのアース端子の接地を行ってください。接地しないと、コンピューター使用時の電波障害や、テレビ・ラジオの受信障害の原因となることがあります。

### 使用しないときは電源プラグを抜いてください

本機は、電源が切れている状態でも約6Wの電力が消費されています。安全と節電のため、長期間ご使用にならないときは電源プラグをACコンセントから抜いてください。

## 電源を入れる



- 電源を切にして冷却を行っている間(90秒)は、再度電源を入れることができません。電源を入れ直すときは、光源ランプの冷却が終わって[POWER]ランプが赤く点灯するまでお待ちください。

1

[POWER]ランプが赤く点灯していることを確認する。

2

電源を入れる。

[POWER]ランプが緑に点滅し、点灯に変わります。

リモコン

POWER



本体パネル

POWER

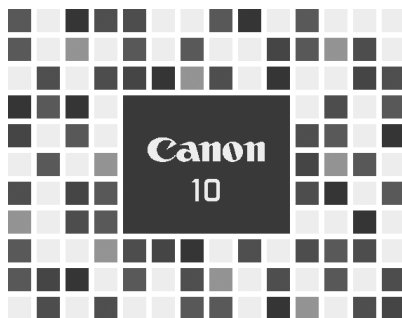


約20秒間オープニング画面が表示され、カウントダウン表示が行われます。

すぐに画像を投写したい場合は、【OK】ボタンを押します。



- 起動時のカウントダウンの表示を消すことができます。(P61)
- オープニング画面に独自のロゴを表示することができます。(P59、60)
- パスワードの入力画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。(P71)

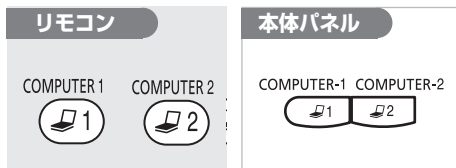


# 3

## コンピューターの映像端子を選ぶ。

DVI-I/RGB IN-1 端子から入力するときは【COMPUTER-1】ボタンを選びます。

RGB IN-2/COMPONENT/RGB OUT 端子から入力するときは【COMPUTER-2】ボタンを選びます。



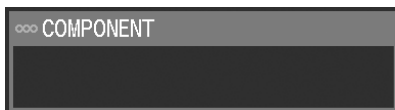
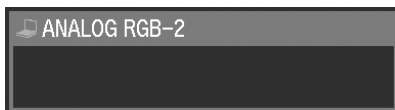
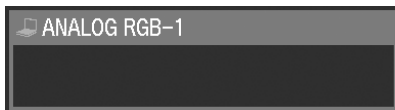
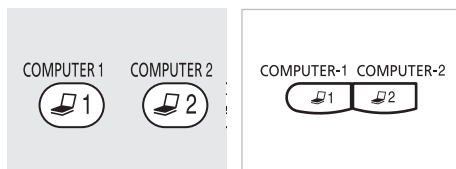
# 4

## 信号形式を選ぶ。

画像が正しく表示されない場合は、手順3と同じボタンを何回か押して入力形式を選びます。

【COMPUTER-1】ボタンを押すと、デジタルRGB (DIGITAL RGB)、アナログRGB-1 (ANALOG RGB-1) が交互に切り換わります。



【COMPUTER-2】ボタンを押すと、アナログRGB-2 (ANALOG RGB-2)、コンポーネント (COMPONENT) が交互に切り換わります。



## オートPC機能を使う

本プロジェクターには、接続されたコンピューターに応じて信号形式 (VGA、SVGA、XGA、SXGA、SXGA+ など) を自動的に選び、総ドット数やトラッキングなどを最適な状態に設定するオートPC機能があります (デジタルRGB時は使用できません)。

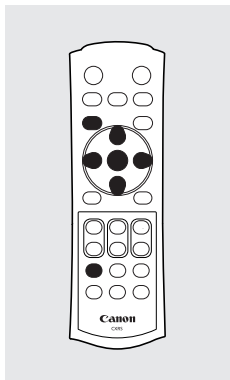
【COMPUTER-1】、【COMPUTER-2】ボタンでコンピューターのモードに切り換えたときは、【AUTO PC】ボタンを押してください。オートPC機能が働き、画像が正しく表示されます。

-  ● コンピューターによっては、オートPC機能が働かない場合があります。この場合は、入力信号の設定 (総ドット数、トラッキング、水平/垂直位置、水平/垂直表示ドット数など) を行う必要があります。
-  ● 最後に使用した信号形式は【COMPUTER-1】、【COMPUTER-2】ボタンごとに記憶されます。同じコンピューターに接続して使用する場合は、コンピューターのモードに切り換えるだけで同じ設定で投写できます。
- 入力信号の設定については52～57ページをご参照ください。

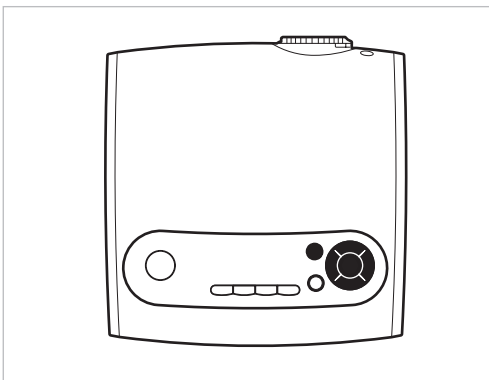
## 画面を調整する

ここで使うボタン

《リモコン》



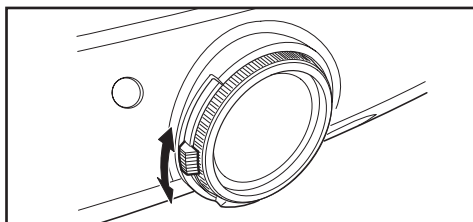
《本体パネル》



### 画面サイズを調整する

ズームレバーを回して、画面サイズを調整します。

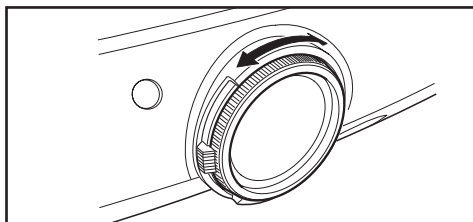
- ズームレバーで調整しきれない場合は、プロジェクターの設置位置を変えてください。



### フォーカスを合わせる

フォーカスリングを回して、画像がもっとも鮮明に写る位置に合わせます。

- 投写距離が、約1.2m～9.1mの範囲を超えるとフォーカスが合わない場合があります。投写距離を調整してください。



## 画面の台形ひずみを補正する

スクリーンに投写した画面が台形にひずむ場合は、キーストーン調整で補正します。

# 1

キーストーン調整を選ぶ。

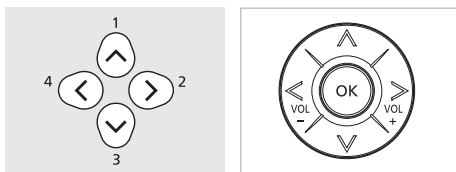
画面に「キーストーン調整」と表示されます。



# 2

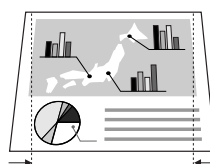
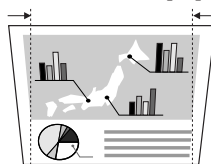
ひずみを調整する。

「キーストーン調整」と表示されている間に調整を行います (操作しないと約10秒で消えます)。



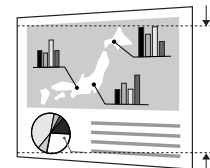
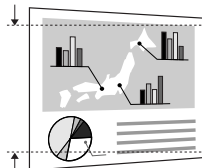
上端を  
せばめるときは【▲】

下端を  
せばめるときは【▼】



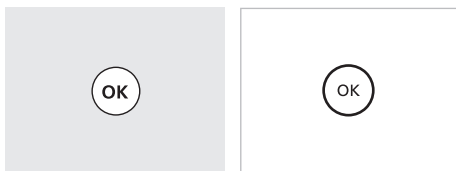
左端を  
せばめるときは【<】

右端を  
せばめるときは【>】



# 3

【OK】 ボタンを押す。



コンピューターの画像を投写する



- キーストーン調整した状態は記憶されます。設置場所が同じであれば調整し直す必要はありません。
- キーストーン調整を使用した場合、信号がデジタル処理されるため、元の画像と見え方が異なることがあります。
- キーストーン調整を行うと、画面の縦横比が変わることがあります。
- キーストーン調整量は上下、左右とも最大で $\pm 20^\circ$ です。なお調整量は光学ズーム、入力信号、上下左右調整の組み合わせなどの条件により異なります。
- 調整しきれない場合は、プロジェクターの設置位置を変えてください。
- キーストーンの調整を0に戻す場合は、【KEYSTONE】ボタンを再度押して[キーストーンリセット]を表示し、【OK】ボタンを押します。

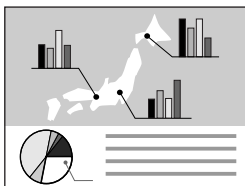


## 画面の表示モードを選ぶ

お使いのコンピューターの画面の解像度に応じて投写方法を次の4つから選ぶことができます。

- 表示モードは、メニューを使って設定します。メニューのスクリーン設定の項をご参照ください。(P57)

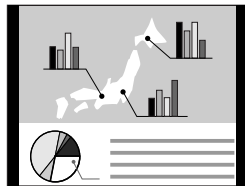
### ■フルスクリーン



解像度が横4：縦3(SXGA+[1400×1050ドット]やXGA[1024×768ドット]など)のコンピューター画面を投写するときを選びます。

解像度が横5：縦4(SXGA[1280×1024ドット])などのコンピューター画面の場合は、縦または横方向が圧縮された画像になります。

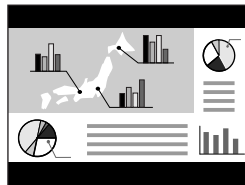
### ■ノーマル



解像度が横5：縦4(SXGA)や、ワイド画面のマッキントッシュなどのコンピューター画面を投写するときを選びます。

コンピューターの画面の横または縦幅に合わせた画像になるため、画面の上下または左右に、画像の写らない部分ができます。

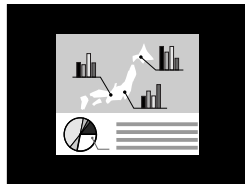
### ■ワイド



解像度が横16：縦9のコンピューター画面を投写するときを選びます。

コンピューターの画面の横幅に合わせた画像になるため、画面の上下に画像の写らない部分ができます。

### ■リアル



コンピューターの画面をオリジナルサイズで写したいときは、[リアル]を選びます。

画像処理が行われないため、鮮明な画像が得られます。

ただし、コンピューターの画面の解像度が1400×1050ドットより大きい場合は選べません。



- コンピューターの画面の解像度が、1400×1050ドットを超える場合は、投写する前にコンピューターを低い解像度に再設定してください。
- 表示モードによっては、投写画面の上下、左右に画像のない部分ができます。

## イメージモード(画質)を選ぶ

イメージモード(画像)は、画質に合わせて4つのモードから選べるほか、ユーザーの好みに合わせて画質(明るさ、コントラスト、シャープネス、ガンマ調整、色調整など)を調整して投写できます。

# 1

【IMAGE】ボタンを押す。



画面に「イメージ」と表示され、ボタンを押すたびに、次の4種類のモードが順に切り換わります。

- 【スタンダード】 オリジナルに近い画質で投写します。白の色味を重視した画質になります。
- 【プレゼンテーション】 プレゼンテーションに適した画質で投写します。明るく明暗の差がはっきりした画質になります。
- 【シネマ】 動画に適した画質で投写します。階調表現を重視した画質になります。
- 【sRGB】 sRGB対応のデジタルカメラの画像などに適した画質で投写します。sRGB規格に対応した表示モードになります。

- それぞれのイメージモードでは次のような調整ができます。調整方法については「イメージ調整メニュー」をご参照ください。(P62)
  - ・明るさ 明るすぎる、暗すぎる時に調整します。
  - ・コントラスト 全体の明るさ、暗さにメリハリがない時に調整します。
  - ・シャープネス ぼやけた画像をくっきりさせたい時に調整します。
  - ・ガンマ/ダイナミックガンマ 明るいところや暗いところがはっきりしない画像を調整します。
  - ・スクリーン色補正/高度な色調整 色味が違って見える時に調整します。
- ユーザーが調整した画質の状態は、入力信号(6種)ごと、それぞれ4つのイメージモードで記憶されます。一度イメージモードを調整すれば、いつでも同じ設定状態で投写できます。
- イメージモードは、メニューを使っても設定できます。メニューのイメージモード設定の項をご参照ください。(P49、62)

# 投写を終える

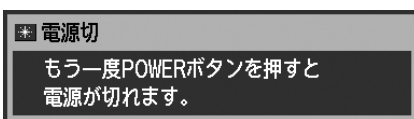
- 電源を入れた後、ランプが安定しない状態で電源を切ると、ランプの寿命を縮める原因になります。電源を入れたら5分以上経ってから切るようにしてください。
- 電源プラグは、電源を切った後、[POWER]ランプが赤く点灯してから抜いてください。電源プラグをすぐに抜くと、ランプや回路の故障の原因になります。
- 24時間以上の連続使用は、ランプおよび、内部光学部品の寿命を縮める原因になります。連続して使用する場合は、24時間に一度本体の電源を切り、1時間ほど休ませてください。

- 電源を切ると、高温になったランプの冷却が行われます。このため、冷却を行っている間（90秒）は、再度電源を入れることができません。

## 1

**【POWER】ボタンを押す。**

画面に確認メッセージが出ます。



投写を続ける場合は、メッセージが消えるまで（約4秒間）待つか、【POWER】ボタン以外のボタンを押します。

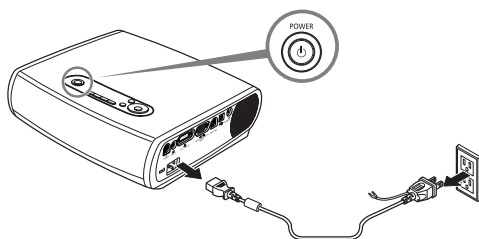
## 2

**メッセージ表示中に、もう一度【POWER】ボタンを押す。**

ランプが消え、[POWER]ランプが赤く点滅してランプの冷却が始まります。

## 3

90秒後、[POWER]ランプが赤く点灯したら、電源プラグをコンセントから抜く。



## パワーマネージメントモードを設定する

入力信号がないまま、プロジェクターの操作が30秒間行われないと、画面にカウントダウン表示が出て、5分後にランプが消え、パワーマネージメントモードに入ります。

パワーマネージメントモードには、次の2種類があり、メニューで設定できます。(P70)

### 待機モード

すぐに投写を再開したい場合に選びます。

パワーマネージメントモードに入ると、ランプが消えて冷却が始まります。冷却が終わると [POWER] ランプが赤と緑の点滅に変わり、待機状態になります。この後、信号が入力されたり、プロジェクターが操作されると、画像の投写が再開されます。

### 終了モード

自動的に電源を切りたいときに選びます。

パワーマネージメントモードに入ると、ランプが消えて冷却が始まります。冷却が終わると [POWER] ランプが赤の点滅から点灯に変わり、電源が切れます。



- パワーマネージメントモードに入り、ランプの冷却中(90秒間)はプロジェクターを操作できません。



- パワーマネージメントモードを使用しない(切)設定にすることもできます。

# 投写中に使える便利な機能

ここでは、プロジェクターにコンピューターを接続し、プレゼンテーションなどを行うときに使用できる便利な機能を説明します。

画像を一時的に消す [NO SHOW] .....	P37
画像を拡大/縮小する [D.ZOOM] .....	P38
経過時間を表示する [P-TIMER] .....	P39
スポットライトで位置を示す [SPOT] .....	P39
静止画にする [FREEZE] .....	P40
音を一時的に消す/調整する [MUTE/VOL] .....	P40
リモコンでマウス操作する .....	P41

## 画像を一時的に消す

NO SHOW

こんなときに便利

- ・プレゼンテーションを終えたとき
- ・出席者の注意をスクリーンからそらすとき

投写中の画像を一時的に消します。

## 画像を消す

リモコン

NO SHOW



画面が黒または青の表示になります。

## 再び画像を表示する

NO SHOW



- 独自のロゴを登録することができます。(P59)
- 画像を消している間、会社のロゴマークなどを表示できます。(P60)

COMPANY

## 画像を拡大/縮小する

### D.ZOOM

#### こんなときに便利

- ・プレゼンテーション中に細かいグラフなどを大きくして説明したいとき
- ・プレゼンテーション中に不要な情報を画面から外し、説明箇所を強調したいとき

投写中の画像を拡大/縮小します。

#### 拡大する

##### リモコン



D.ZOOM

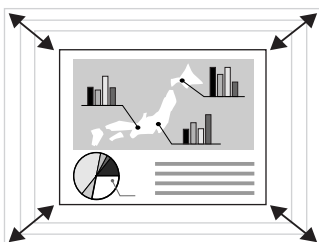
目的の大きさになるまで何回か押します。

#### 縮小する

D.ZOOM



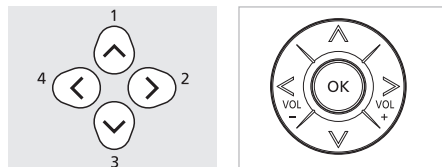
目的の大きさになるまで何回か押します。



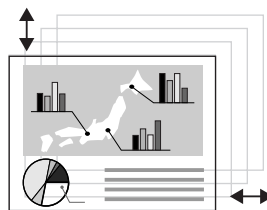
- 【D.ZOOM】ボタンを押すと、画面に倍率が表示されます。
- 【OK】ボタンを押すと解除されます。

#### 表示したい位置へ移動する

拡大した画像が画面サイズを超えた場合、表示位置を移動して目的の箇所を投写画面に表示できます。



上下左右に移動して目的の箇所を表示します。



- ズーム可能な倍率は1～12倍です。
- 画像を拡大した状態でも静止画にすることができます。

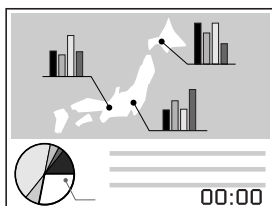
## 経過時間を表示する

P-TIMER

こんなときに便利

- ・プレゼンテーションの進行を管理したいとき

ストップウォッチのように00:00～59:59までの経過時間を画面の右下に表示します。



カウントを始める

リモコン

P-TIMER



1回押すと、タイマーが表示され、カウントが始まります。

カウントを止める

P-TIMER



もう1回押すと、タイマーが停止します。

カウント表示を消す

P-TIMER



さらに1回押すと、タイマーの表示が消えます。

## スポットライトで位置を示す

SPOT

こんなときに便利

- ・プレゼンテーション中に注目すべきポイントを指し示したいとき

投写中の画像の特定部分をポインタで指し示します。



ポインタを置く

リモコン

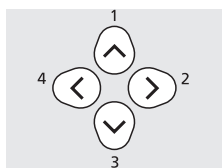
SPOT



画面中央にポインタが現れ、ポインタ以外の画像が暗くなります。

ポインタには複数の種類があり、【SPOT】ボタンを押すたびに切り換わります。

ポインタを移動する



ポインタを目的の位置に移動します。

ポインタを解除するには【OK】ボタンを押してください。通常の画像に戻ります。

投写中に使える便利な機能

## 静止画にする

**FREEZE**

### こんなときに便利

- ・プレゼンテーションの流れと関係ないパソコン操作を隠れて行いたいとき
- ・変化する画像を途中で止めて見せたいとき

投写中の画像を一時的に静止画にします。

### 静止画にする

#### リモコン

FREEZE



画面に「FREEZE」表示が出ます。

### 静止画を解除する

FREEZE



さらに1回押すと、静止画が解除されます。



- 静止画の状態でも画像の拡大／縮小ができます。

## 音を一時的に消す/調節する

**MUTE**

### こんなときに便利

- ・プロジェクターのスピーカーから音を出すとき
- ・プロジェクターのスピーカーの音量を調整したいとき

音を一時的に消したり、音量を調整します。

### 音声を消す

#### リモコン

MUTE



画面に「MUTE」表示が出ます。

### 音声を元に戻す

MUTE



さらに1回押すと、音声元に戻ります。

【VOL +/-】ボタンでも音声を元に戻せます。

### 音量を調節する



VOL



【+】/【-】ボタンを押すと、画面に音量バーが表示されます(操作しないと約4秒で消えます)。



- この操作はリモコン、本体パネルのどちらでも行えます。



## リモコンでマウス操作する

### こんなときに便利

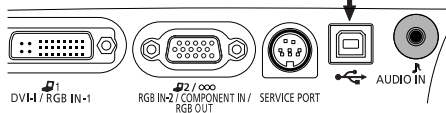
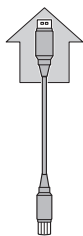
- ・リモコンを使ってパソコンのマウス操作をしたいとき

付属のリモコンをコンピューターのワイヤレスマウスとして使用できます。

### USBケーブルの接続

コンピューターとプロジェクターの電源が切になっていることを確認し、付属のUSBケーブルで、コンピューターのUSB端子と本機のUSB端子を接続します。

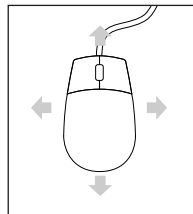
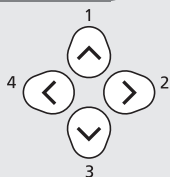
 コンピューター側



- この機能は、Windows XP、Windows 2000、Windows Me、およびMac OS 9.2以上で使用できます。

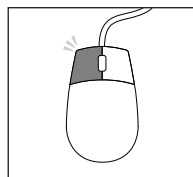
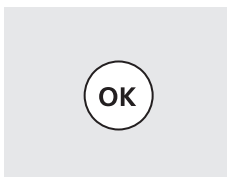
### カーソルを移動する

#### リモコン



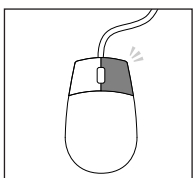
マウスカーソルを上下左右に移動できます。

### マウスの左ボタンを使う



マウスボタンのクリック、ダブルクリック、押したままの操作などができます。

### マウスの右ボタンを使う



投写中に使える便利な機能

# AV機器の映像を投写する

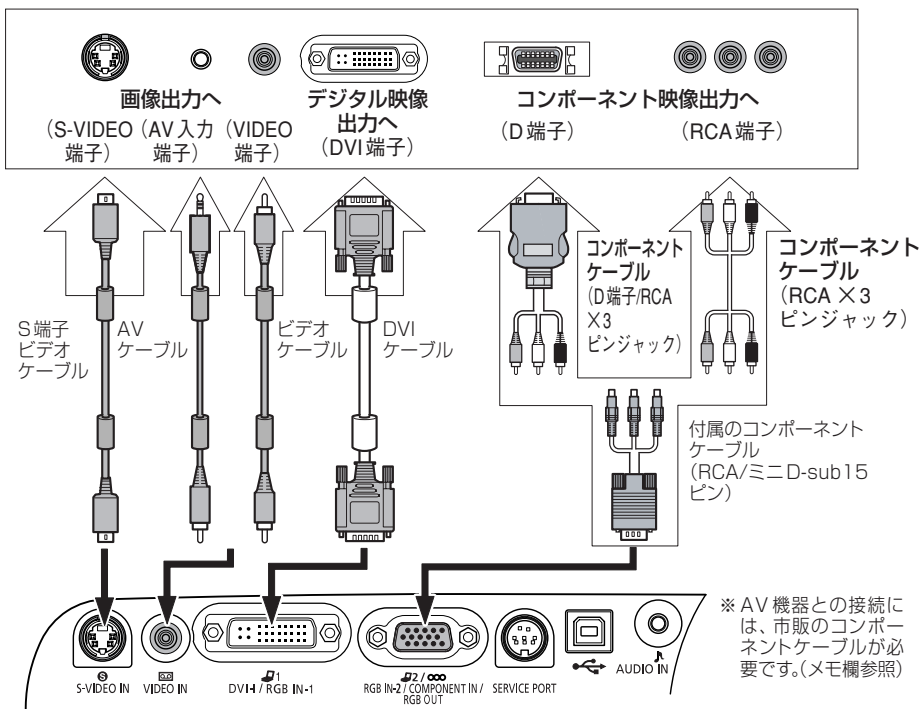
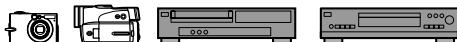
## AV機器に接続する


プロジェクターとAV機器を接続します。

### 映像端子につなぐ

- プロジェクターとAV機器の両方の電源を切ってから接続してください。
- SCART端子には対応していません。

デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、AV機器(DVDプレーヤー、ビデオデッキ、各種チューナーなど)



 上の図はあくまでも一例です。詳しくは、接続するAV機器の使用説明書をご参照ください。

### コンポーネントケーブルについて

同梱のコンポーネントケーブル(RCA/ミニD-sub15ピン)だけでは、AV機器に接続できません。AV機器側の端子に合わせて、市販の次のようなケーブルを使用してください。

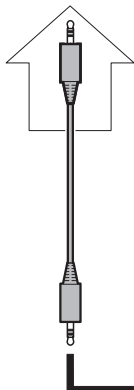
- RCA端子の場合：RCA/RCA 3×ピンジャック
- D端子の場合：D端子/RCA 3×ピンジャック

## 音声端子につなぐ

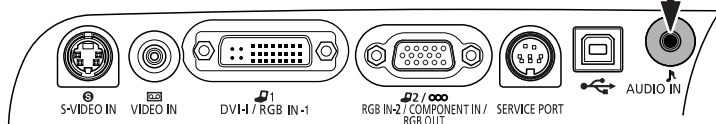
必要に応じて音声端子をつなぎます。

- プロジェクターとAV機器の両方の電源を切ってから接続してください。

デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、AV機器(DVDプレーヤー、ビデオデッキ、各種チューナーなど)



オーディオケーブル(ステレオミニプラグ)で接続します。



- 抵抗が内蔵されていないオーディオケーブルをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- 内蔵スピーカーはモノラル出力です。
- スピーカーからはオーディオケーブルの接続されている機器の音声が出力されます。

## 投写を始める

電源コードをつなぎ、プロジェクターの電源を入れます。



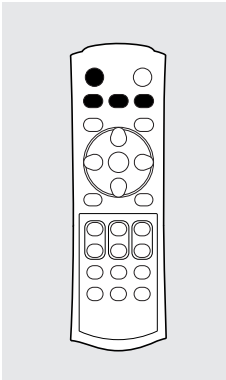
- 電源コードをつなぐ前に、AV機器に接続してください。
- 電源を切った後は、約90秒間電源を入れることができません。電源を入れ直すときは、光源ランプの冷却が終わって[POWER]ランプが赤く点灯するまでお待ちください。



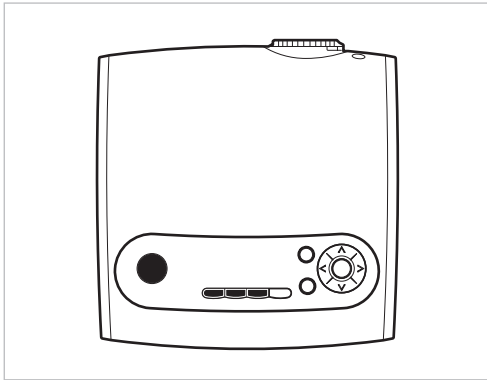
- 投写のしかたは基本的にコンピューターと接続する場合と同じです（P23）。ここでは、AV機器特有の内容を説明します。

### ここで使うボタン

《リモコン》



《本体パネル》



1 電源コードをつなぐ。

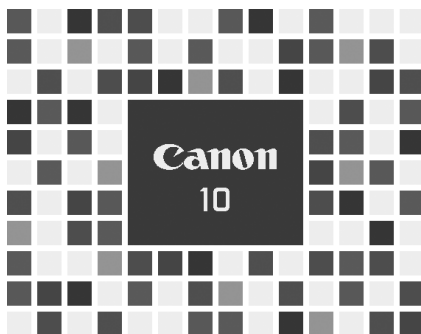
2 [POWER] ランプが赤く点灯していることを確認する。

3 電源を入れる。  
[POWER] ランプが緑に点滅し、点灯に変わります。



約20秒間オープニング画面が表示され、カウントダウン表示が行われます。

- 起動時のカウントダウンの表示を消すことができます。(P61)
- オープニング画面に独自のロゴを表示することができます。(P59、60)
- パスワードの入力画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。(P71)
- すぐに画像を投写したい場合は、【OK】ボタンを押します。



AV機器の映像を投写する

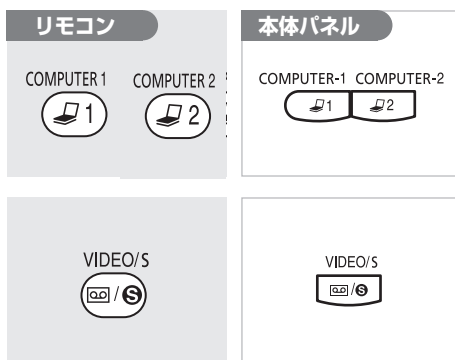
# 4

## AV機器映像端子を選ぶ。

DVI-I/RGB IN-1 端子から入力するときは【COMPUTER-1】ボタンを押します。

RGB IN-2/COMPONENT/RGB OUT 端子から入力するときは【COMPUTER-2】ボタンを押します。

S-VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子から入力するときは【VIDEO/S】ボタンを押します。



# 5

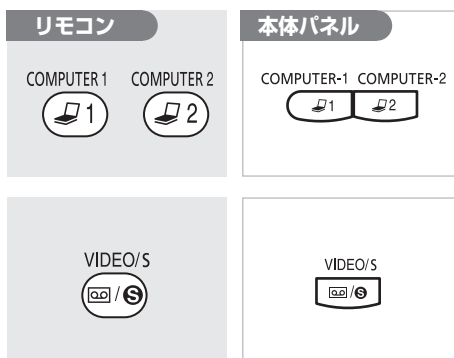
## 信号形式を選ぶ。

映像が正しく表示されない場合は、手順4と同じボタンを何回か押して入力形式を選びます。

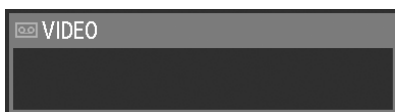
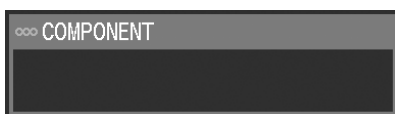
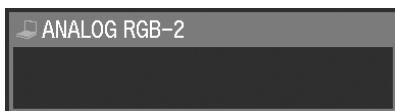
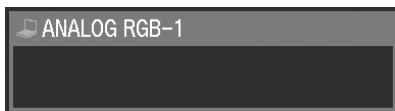
【COMPUTER-1】ボタンを押すと、デジタルRGB (DIGITAL RGB)、アナログRGB-1 (ANALOG RGB-1) が交互に切り換わります。

【COMPUTER-2】ボタンを押すと、アナログRGB-2 (ANALOG RGB-2)、コンポーネント (COMPONENT) が交互に切り換わります。

【VIDEO/S】ボタンを押すと、ビデオ (Video)、Sビデオ (S-Video) が交互に切り換わります。



- 本プロジェクターでは、HDCP技術によりコピープロテクトされているデジタルコンテンツを投写することはできません。
- 入力信号の選びかたについては、56、57ページを参照してください。



# 6

## AV機器を再生する。

AV機器の映像が投写されます。

## 画面を調整する

画面の調整のしかたは基本的にコンピューターと接続する場合と同じです。ここでは、AV機器特有の内容を説明します。そのほかの画面の調整についてはP30をご参照ください。

### 画面の表示モードを選ぶ

お使いのAV機器や再生する映像ソフトの仕様などに応じて、投写方法を次の3つから選ぶことができます。

- 表示モードは、メニューを使って設定します。メニューのスクリーン設定の項をご参照ください。(P58)

#### ■ ノーマル (ビデオ、Sビデオ、コンポーネント入力時のみ)

横4：縦3の通常の画面で投写するときは、「ノーマル」を選びます。

4 : 3



#### ■ ワイド (ビデオ、Sビデオ、コンポーネント入力時のみ)

横16：縦9のワイド画面で投写するときは、「ワイド」を選びます。

16 : 9



- ワイド画面のときの画面サイズについては、P85の表に記載されています。

#### ■ オート (コンポーネント入力時のみ)

AV機器の映像に応じて「ノーマル」と「ワイド」を自動的に切り換えるときは、「オート」を選びます。



- 表示モードによっては、投写画面の上下、左右に映像のない部分が生じます。
- デジタルRGBおよびアナログRGB-1入力時の表示モードは、コンピューターの接続時と同じです。(P33)



# メニューによる機能設定

## メニューの使いかた

投写画面の上に表示されるプロジェクターの設定を行うためのウィンドウをメニューと呼びます。メニューの内容、入力信号(アナログRGB、コンポーネントなど)によって違いがありますが、基本的な使いかたは同じです。ここでは、メニューの典型的な操作の流れを説明しています。メニューには、次の3種類があります。

### 表示設定メニュー

コンピューターやAV機器の入力信号の設定や、表示に関する各種の設定を行います。

### イメージ調整メニュー

投写する映像の各種の調整を行います。

### システム設定メニュー

本プロジェクターの各種機能の設定を行います。

ここでは、最初にメニューの典型的な操作の流れを説明し、その後でメニュー項目の詳しい説明を行います。

## メニュー項目の説明を表す記号

次のマークによって、コンピューターの画像を投写するときを使用できるメニュー項目、AV機器の映像を投写するときを使用できるメニュー項目を分けています。



コンピューターの画像を投写するとき  
に使用するメニューです。



AV機器の映像を投写するとき  
に使用するメニューです。

**デジタルRGB** デジタルRGB入力

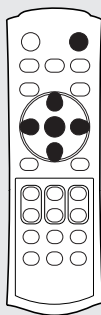
**アナログRGB** アナログRGB-1 / -2入力

**コンポーネント** コンポーネント入力

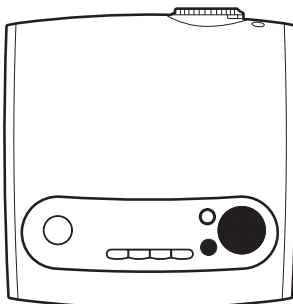
**ビデオ/Sビデオ** ビデオ入力 / Sビデオ入力

## ここで使うボタン

### 《リモコン》



### 《本体パネル》

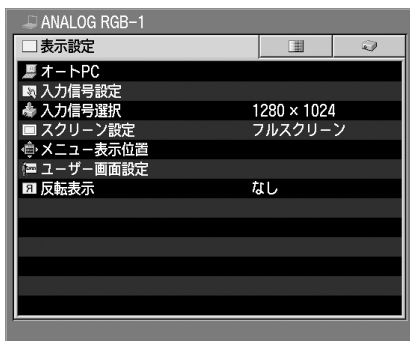


# 1

【MENU】ボタンを押す。

メニューウィンドウが表示されます。

- メニューを消す場合は、もう一度【MENU】ボタンを押します。

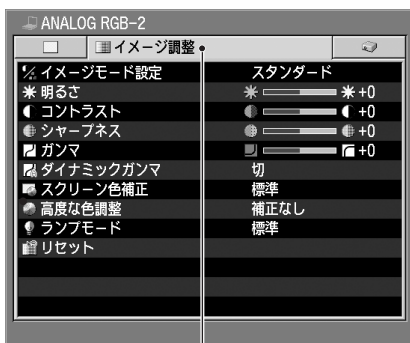
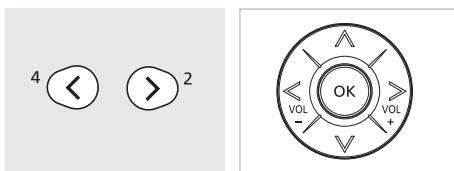


# 2

設定する項目のタブを選ぶ。

[表示設定]、[イメージ調整]、[システム設定]の3種類のタブから選びます。

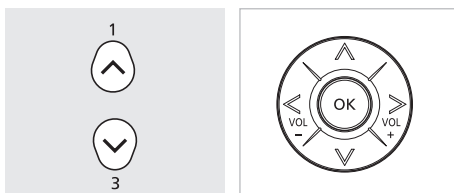
- メニューを開くと、前回操作した項目が選ばれています。タブを選び直す場合は、【A】ボタンでタブの位置まで上がってから選びます。



選ばれている項目はオレンジのハイライトになります

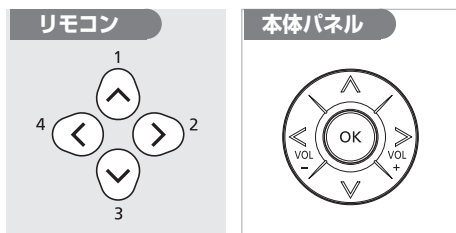
# 3

設定する項目を選ぶ。



# 4 設定を行う。

目的の調整や選択を行います。  
設定の内容によってリストから設定を選んだり、スライダーによる調整、別ウィンドウでの設定などを行います。



## メニュー選択

(例えばスクリーン設定を行うとき)



## スライダーによる調整

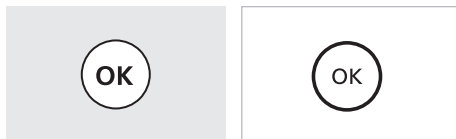
(例えばコントラストを調整するとき)



# 5 【OK】ボタンを押す。

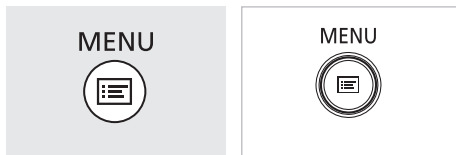
設定が有効になります。

- メニューには選択した時点で有効になる項目と、【OK】ボタンを押して有効になる項目があります。



# 6 設定が終わったら、【MENU】ボタンを押す。

メニューが消えます。



## 別ウィンドウでの設定

(例えばユーザーロゴを登録するとき)



# 表示設定メニュー

コンピューターやAV機器の入力信号の設定や、表示に関する各種の設定を行います。

- オートPC調整を行う [オートPC] .....P52
- 総ドット数を調整する [総ドット数] .....P53
- トラッキングを調整する [トラッキング] .....P53
- 水平位置を調整する [水平位置] .....P54
- 垂直位置を調整する [垂直位置] .....P54
- 水平表示ドット数を調整する [水平表示ドット数] ...P55
- 垂直表示ドット数を調整する [垂直表示ドット数] ...P55
- 入力信号を選ぶ [入力信号選択] .....P56、57
- 画面の表示モードを選ぶ [スクリーン設定] .....P57、58
- メニューの位置を選ぶ [メニュー表示位置] .....P58
- 表示するロゴを登録する [ユーザー画像登録] .....P59
- ロゴの表示位置を選ぶ [ユーザー画像位置] .....P59
- ロゴを表示する (入力信号なし) [無信号時画面] .....P60
- ロゴを表示する (NO SHOW) [NO SHOW時画面] .....P60
- ロゴを表示する (電源入) [起動時画面] .....P61
- 天吊り/リア投写で使う [反転表示] .....P61



## オートPC調整を行う

アナログRGB

接続されたコンピューターの入力信号 (アナログRGB) を自動で検出して、画像が正しく写るように総ドット数やトラッキングなどを最適な状態に設定します。

表示設定

オートPC



OK オートPC機能が働きます。



- ほとんどのコンピューターは、オートPC機能で画像を最適に投写できます。
- オートPC機能が有効なコンピューターの信号形式はP84の表で確認できます。
- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合は、次の項目の [入力信号設定] の各項目 ([総ドット数] ~ [垂直表示ドット数]) を手動で設定してください。(P53 ~ 55)

## 総ドット数を調整する



アナログRGB

水平期間の総ドット数を調整します。

表示設定

入力信号設定

総ドット数

入力信号設定	
総ドット数	1688
トラッキング	0
水平位置	327
垂直位置	42
水平表示ドット数	1280
垂直表示ドット数	1024
戻る	

&gt; 総ドット数を上げます。

&lt; 総ドット数を下げます。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。

## トラッキングを調整する



アナログRGB

トラッキングがずれて画面がちらつくときに調整します。

表示設定

入力信号設定

トラッキング

入力信号設定	
総ドット数	1688
トラッキング	0
水平位置	327
垂直位置	42
水平表示ドット数	1280
垂直表示ドット数	1024
戻る	

&gt; 設定値を増やします。

&lt; 設定値を減らします。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は[アナログRGB-1]、[アナログRGB-2]で別々に記憶されます。

## 水平位置を調整する

アナログRGB



画面が左右にずれて表示されるときに画面の水平方向の位置を調整します。

表示設定

入力信号設定

水平位置

入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	0
■ 水平位置	327
■ 垂直位置	42
■ 水平表示ドット数	1280
■ 垂直表示ドット数	1024
↶ 戻る	

> 画面を右にずらします。

< 画面を左にずらします。



- オートPC 機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログRGB-1]、[アナログRGB-2] で別々に記憶されます。

## 垂直位置を調整する

アナログRGB



画面が上下にずれて表示されるときに画面の垂直方向の位置を調整します。

表示設定

入力信号設定

垂直位置

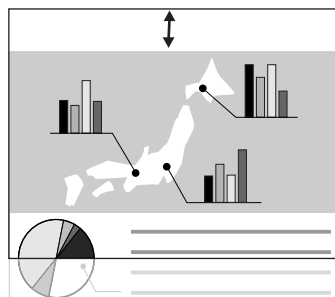
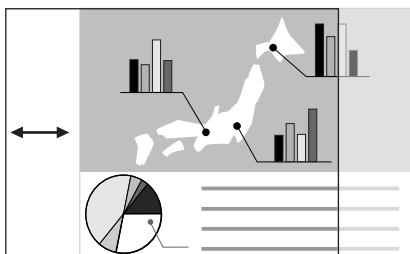
入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	0
■ 水平位置	327
■ 垂直位置	42
■ 水平表示ドット数	1280
■ 垂直表示ドット数	1024
↶ 戻る	

> 画面を上をずらします。

< 画面を下をずらします。



- オートPC 機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログRGB-1]、[アナログRGB-2] で別々に記憶されます。



## 水平表示ドット数を調整する



アナログRGB

画面が左右に広いまたは狭い場合、投写画面サイズに合わせて画面の水平方向のドット数を調整します。

表示設定

入力信号設定

水平表示ドット数

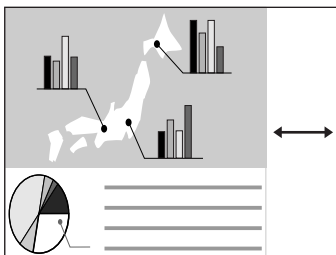
入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ ドラッキング	0
■ 水平位置	327
■ 垂直位置	42
■ 水平表示ドット数	1280
■ 垂直表示ドット数	1024
戻る	

> 水平ドット数を増やします。

< 水平ドット数を減らします。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は[アナログRGB-1]、[アナログRGB-2]で別々に記憶されます。



## 垂直表示ドット数を調整する



アナログRGB

画面が上下に広いまたは狭い場合、投写画面サイズに合わせて画面の垂直方向のドット数を調整します。

表示設定

入力信号設定

垂直表示ドット数

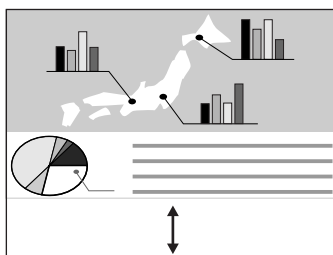
入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ ドラッキング	0
■ 水平位置	327
■ 垂直位置	42
■ 水平表示ドット数	1280
■ 垂直表示ドット数	1024
戻る	

> 垂直ドット数を増やします。

< 垂直ドット数を減らします。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は[アナログRGB-1]、[アナログRGB-2]で別々に記憶されます。



## 入力信号を選ぶ(1)

アナログRGB



オートPC機能で入力信号の形式が複数現れた場合、正しい信号形式を選びます。

表示設定

入力信号選択



[1280 x 1024]  
[1400 x 1050]

⋮

表示された信号形式からコンピューターに合ったものを選びます。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されず、複数の信号形式が見つかった場合は、入力信号の形式を選んでください。
- 本プロジェクターが対応している信号形式については、P84の表をご参照ください。

## 入力信号を選ぶ(2)

ビデオ/ビデオ



AV機器の映像が正しく投写されない(色や映像が出ない)ときに入力信号を手動で設定できます。

表示設定

入力信号選択



オート

入力信号が自動的に設定されます。

NTSC

オートで映像が正しく投写されない場合に、左の項目から入力信号を選びます。

PAL

SECAM

NTSC4.43

PAL-M

PAL-N



- 接続するAV機器の使用説明書で、入力信号を確認してください。
- 日本の映像方式はNTSCです。



## 入力信号を選ぶ(3)

コンポーネント

AV 機器の映像が正しく投写されないときに入力信号を手動で設定できます。

表示設定

入力信号選択



オート

入力信号に合わせてコンポーネントフォーマットが自動的に設定されます。

1080i

オートで映像が正しく投写されない場合に、左の項目から入力信号を選びます。

1035i

720p

575p

480p

575i

480i

## 画面の表示モードを選ぶ(1)

アナログRGB | デジタルRGB

画面のサイズに対して投写した画像のサイズが小さい/大きいときに表示モードを選びます。

表示設定

スクリーン設定



フルスクリーン

コンピューターの画面全体が投写画面全体になる大きさで投写します。

ノーマル

入力信号の縦横比のまま、最大の大きさで投写します。

ワイド

コンピューターの画面の横幅を投写画面の横幅に合わせ、16:9のサイズで投写します。

リアル

コンピューターの画面をオリジナルサイズ(拡大/縮小なし)で投写します。



- コンピューターの画面の解像度は、1400×1050ドット以下に設定してください。
- フルスクリーンを選んだ場合、コンピューターの画面の解像度によっては真円が真円に見えないことがあります。
- 表示モードによっては、投写画面の上下、左右に画像のない部分ができます。



- 接続するAV機器の使用説明書で、コンポーネント信号形式を確認してください。

## 画面の表示モードを選ぶ(2)

ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

投写する映像のサイズに合わせて、画面の表示モードを選びます。

表示設定

スクリーン設定



オート

AV機器の映像に応じて「ノーマル」と「ワイド」を自動的に切り換えます。コンポーネント入力の際に表示され、選択できます。

ノーマル

横4：縦3の通常の画面サイズで投写します。

ワイド

横16：縦9のワイド画面のサイズで投写します。



- 表示モードによっては、投写画面の上下、左右に映像のない部分ができます。

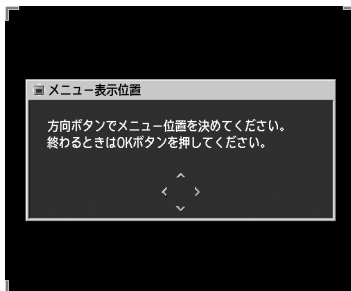
## メニューの位置を選ぶ

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

画面に表示されるメニューの位置を変えることができます。

表示設定

メニュー表示位置



【↑】【←】【↓】【→】ボタンでメニューの位置を移動します。



- 位置が決まったら【OK】ボタンを押します(操作せずに30秒間が過ぎるとメニューは消えます)。

## 表示するロゴを登録する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

電源を入れたとき、入力信号のないとき、画像を一時的に消したときに、ユーザー独自の画像（ロゴ）を表示できます。

表示設定

ユーザー画面設定

ユーザー画像登録



はい

登録する画像を画面に表示します。赤い枠に読み込む範囲を合わせ、【OK】ボタンを押します。枠の中の画像が登録されます。

いいえ

画像の登録を取りやめます。



- 登録できる画像は1画面分だけです。
- 登録した画像を表示する場合は、「起動時画面」、「無信号時画面」、「NO SHOW時画面」で「ユーザー画像」を選びます。
- 解像度や走査方式によっては、画像の登録ができない場合があります。

## ロゴの表示位置を選ぶ

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

ロゴの表示位置を選びます。ロゴは、お好みで画面の中央や四隅に表示できます。

表示設定

ユーザー画面設定

ユーザー画像位置



左上

ロゴの表示位置を選びます。

右上

中央

左下

右下

## ロゴを表示する(入力信号なし)



デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

入力信号がない場合に、画面にロゴを表示できます。

表示設定

ユーザー画面設定

無信号時画面



**黒** ロゴを表示しません(黒画面)。

**青** ロゴを表示しません(ブルーバック)。

**ユーザー画像** 「ユーザー画像登録」で登録したロゴを表示します。

❗ ユーザー画像登録が行われていない場合は、「ユーザー画像」は選べません。

## ロゴを表示する(NO SHOW)



デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

【NO SHOW】ボタンを押して画像を一時的に消したときに、画面にロゴを表示できます。

表示設定

ユーザー画面設定

NO SHOW時画面



**黒** ロゴを表示しません(黒画面)。

**青** ロゴを表示しません(ブルーバック)。

**ユーザー画像** 「ユーザー画像登録」で登録したロゴを表示します。

❗ ユーザー画像登録が行われていない場合は、「ユーザー画像」は選べません。

## ロゴを表示する(電源入)

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

電源を入れ、投写準備ができるまでの間、画面にロゴを表示できます。

表示設定

ユーザー画面設定

起動時画面



**Canonロゴ** あらかじめ登録されているキャノンのロゴを表示します。

**表示しない** 電源を入れるとすぐに画像を投写します。

**ユーザー画像** 「ユーザー画像登録」で登録した画像を表示します。



ユーザー画像登録が行われていない場合は、「ユーザー画像」は選べません。

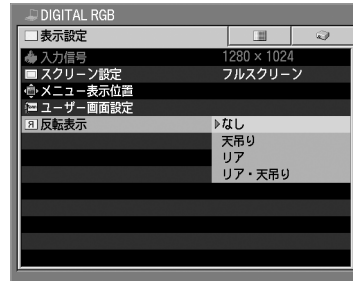
## 天吊り/リア投写で使う

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

本機を天井から吊り下げたり、透過型スクリーンに投写する場合に設定します。

表示設定

反転表示



**なし** 通常の投写を行います。

**天吊り** 天井から逆さに吊り下げて投写するときを選びます。上下左右を反転して投写します。

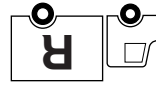
**リア** リア投写するときを選びます。左右を反転して投写します。

**リア・天吊り** 天井から逆さに吊り下げてリア投写するときを選びます。上下を反転して投写します。

なし(通常の画像)



天吊り



リア



リア天吊り

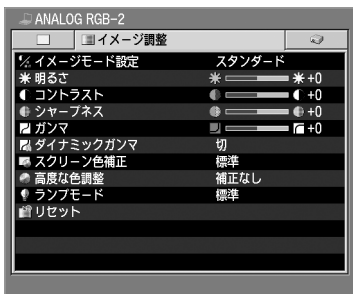


吊り下げ型の設置には、オプションの天吊り金具を使用します。詳しくは、販売店にお問い合わせください。

# イメージ調整メニューで 画質を調整する

投写する映像の各種の調整を行います。

- 画質を選ぶ [イメージモード設定] .....P62
- 明るさを調整する [明るさ] .....P63
- コントラストを調整する [コントラスト] .....P63
- シャープネスを調整する [シャープネス] .....P64
- ガンマ補正を行う [ガンマ] .....P64
- ダイナミックガンマ機能を使う [ダイナミックガンマ] ....P65
- 色の濃さを調整する [色の濃さ] .....P65
- 色合いを調整する [色合い] .....P66
- スクリーンの色補正を行う [スクリーン色補正] ....P66
- 高度な色調整を行う [高度な色調整] .....P67
- プログレッシブ処理を行う [プログレッシブ] ...P67
- ランプの明るさを絞る [ランプモード] .....P68
- イメージ調整をリセットする [リセット] .....P68



メニューによる機能設定

## 画質を選ぶ

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント



表示された画像が思いどおりの色や明るさなどでないときに画質を調整できます。

### イメージ調整

### イメージモード設定



**スタンダード** オリジナルに近い画質で投写します。白の色味を重視した画質になります。

**プレゼンテーション** プレゼンテーションに適した画質で投写します。明るく明暗の差がはっきりした画質になります。

**シネマ** 動画に適した画質で投写します。階調表現を重視した画質になります。

**sRGB** sRGB対応のデジタルカメラの画像などに適した画質で投写します。sRGB規格に対応した表示モードになります。



- それぞれのイメージモードの画質は、ユーザーの好みに合わせて調整（明るさ、コントラストなど）できます。
- ユーザーが調整した画質の状態は、入力信号（6種）ごとに4つのイメージモードそれぞれに記憶されます。

## 明るさを調整する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

画像が明るすぎるときや、暗すぎるときに画像の明るさを調整します。

イメージ調整

明るさ



> 画像が明るくなります。

< 画像が暗くなります。

- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

## コントラストを調整する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

画像にメリハリをつけたいときや、やさしい画像にしたいときに明るい部分と暗い部分の差を調整します。

イメージ調整

コントラスト



> コントラストを上げます。画像が濃くくっきりします。

< コントラストを下げます。画像が淡くなります。

- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

## シャープネスを調整する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

画像を鮮明にしたいときや、ぼかしたいときに画像のシャープネスを調整します。

イメージ調整

シャープネス



> 画像が鮮明になります。

< 画像がぼやけます。



- シャープネスは、±4段階で調整できます。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

## ガンマ補正を行う

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

明るいところや暗いところがはっきりしない画像を調整します。

イメージ調整

ガンマ



> 暗くつぶれている部分が見えるように補正されます。

< 明るくて消えている部分が見えるように補正されます。



- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。



## ダイナミックガンマ機能を使う

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

明るいところと暗いところの階調表現が自動的に改善されます。

## 色の濃さを調整する

ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

色が濃すぎるときや、薄すぎるときに調整します。

### イメージ調整

#### ダイナミックガンマ

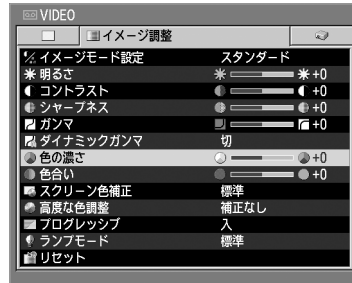


**入** ダイナミックガンマ機能を使用します。

**切** ダイナミックガンマ機能を使用しません。

### イメージ調整

#### 色の濃さ



**>** 色が濃くなります。

**<** 色が薄くなります。



- リアルタイムで自動的に最適な画質になるように画像を調整します。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。



- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

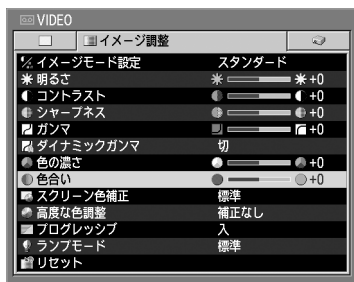
## 色合いを調整する

ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

紫がかった映像や、緑がかった映像に対して色合いを調整します。

イメージ調整

色合い



> 紫がかった映像が補正されます。

< 緑がかった映像が補正されます。



- ビデオフォーマットがPAL、PAL-M、PAL-N、SECAMの場合は調整できません。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

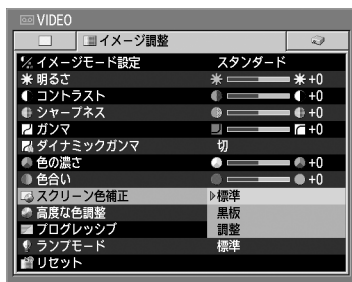
## スクリーンの色補正を行う

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

画像の白の部分が正しく表示できるようにホワイトバランスを調整します。

イメージ調整

スクリーン色補正



**標準** 標準的なスクリーンを使用したとき、自然光に近い色調で投写します。

**黒板** 黒板（濃緑色）をスクリーンに使用したとき、標準に近い色調で投写します。

**調整** 赤、緑、青の色調をレベルメーターで調整します。

> 各色の明るさが上がります。

< 各色の明るさが下がります。



- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

## 高度な色調整を行う

デジタルRGB アナログRGB ビデオ/Sビデオ コンポーネント

記憶色補正機能や、6軸色調整機能を使って好みの色調を表現します。

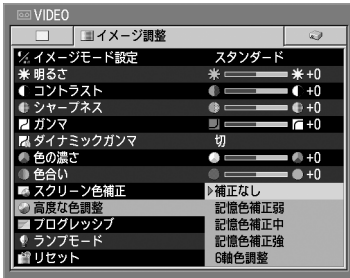
## プログレッシブ処理を行う

ビデオ/Sビデオ コンポーネント

高画質で写すときは、プログレッシブ処理を使用します。

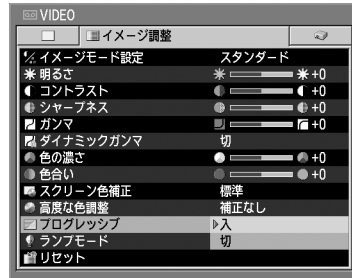
### イメージ調整

#### 高度な色調整



### イメージ調整

#### プログレッシブ

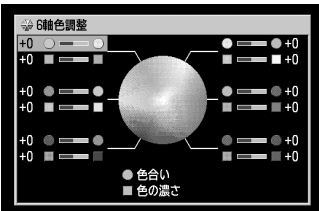


**補正なし** 色調補正を行いません。

**記憶色補正 弱** 青空など、人の記憶にある色をより鮮やかに表現するための補正を3段階で行います。

**記憶色補正 中**

**6軸色調整** RGB (赤、緑、青)にCMY (シアン、マゼンタ、イエロー)を加えた6軸色調整ボックスを表示し、きめ細かな色調整を行います。



【△】【▽】ボタンで「色合い」または「色の濃さ」のバーを選び、【<】【>】ボタンで調整を行います。色調整が終わったら【OK】ボタンを押して確認します。

● 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

**入** プログレッシブ処理を行います。

**切** プログレッシブ処理を行いません。

- コンポーネント信号が1080i、1035i、720p、575p、480pの場合、この機能は使用できません。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。
- 動きの多い映像で、ちらつきや横線が目立つときは切にしてください。

## ランプの明るさを絞る

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

明るさを制限したい場合、ファンの音が気になる場合は、ランプの光量を落とします。

イメージ調整

ランプモード



**標準** 標準の明るさで投写します。

**静音** ランプの光量を落とし、ファンの音を静かにします。

- 静音にすると、ランプの消費電力を抑えることができます。

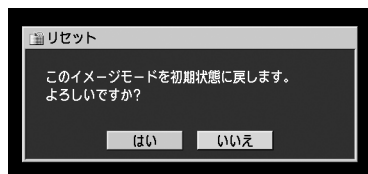
## イメージ調整をリセットする

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

イメージ調整をやり直したいときに、現在の設定をリセットし、工場出荷設定に戻します。

イメージ調整

リセット



**はい** イメージ調整の設定をリセットします。

**いいえ** リセットを中止します。

- イメージ調整の設定は、入力信号、イメージモードごとに記憶されています。リセットを行うと、現在選ばれている入力信号のイメージモードの設定がリセットされます。

## システム設定メニューで 機能を設定する

本プロジェクターの各種機能の設定を行います。

画像をモニターへ出力する [端子設定] .....	P69
パワーマネージメントモードを選ぶ [パワーマネージメントモード] .....	P70
電子音を鳴らす [電子音] .....	P70
プロジェクターの操作を禁止する [キーロック] .....	P71
パスワードを登録する [パスワード登録] .....	P71
パスワードを設定する [パスワード設定] .....	P72
リモコンを設定する [リモコン] .....	P72
表示言語を選ぶ [言語] .....	P73
工場出荷設定に戻す [初期設定] .....	P73
ランプカウンターをリセットする [ランプカウンター] .....	P74



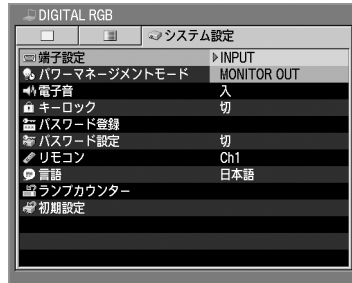
### 画像をモニターへ出力する

アナログRGB

RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子をアナログRGBの出力端子として使用できます。

システム設定

端子設定



INPUT

RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子を入力端子として使用します。

MONITOR OUT

RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子を出力端子として使用します。



入力信号がアナログRGBでも、[COMPUTER-2] が選ばれているときは、モニター出力の設定ができません。その場合は [COMPUTER-1] ボタンを押してからモニター出力を設定してください。



● 入力信号が [COMPUTER-1] でアナログRGB入力の場合のみ、RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT 端子からモニターなどへ出力できます。

## パワーマネージメントモードを選ぶ

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

プロジェクターを使用しないときに、自動的にランプを消したり、電源を切って節電します。

### システム設定

#### パワーマネージメントモード



切

パワーマネージメントモードを使用しません。

待機

待機モードに入り、信号が入力されたり、プロジェクターが操作されると、画像の投写を再開します。

終了

終了モードに入り、自動的に電源を切ります。



- パワーマネージメントモードの詳細については36ページを参照してください。

## 電子音を鳴らす

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

操作パネルやリモコンのボタンを押したときに、電子音を鳴らすことができます。

### システム設定

#### 電子音



入

電子音を鳴らします。

切

電子音を鳴らしません。



- 【MUTE】ボタンで一時的に音を消している場合は、電子音は鳴りません。

## プロジェクターの操作を禁止する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

操作パネルやリモコンのボタンの使用を禁止し、プロジェクターが誤って操作されるのを防ぎます。

## パスワードを登録する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

プロジェクターの電源を入れるためのパスワードを登録します。

システム設定

キーロック



**切** キーロック機能を使用しません。

**本体** 本体の操作パネルの使用を禁止します。

**リモコン** リモコンの使用を禁止します。

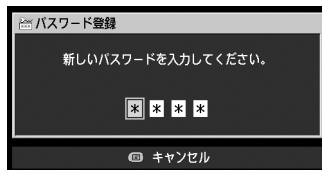
- キーロックは、「本体」または「リモコン」を選び、【OK】ボタンを押した瞬間から有効になります。【OK】ボタンは、禁止していない操作パネルまたはリモコン側で押してください。
- キーロックを強制解除する場合は、投写を終えてから電源コードを抜き、操作パネルの【OK】ボタンを押しながら電源コードを差し込んでください。

システム設定

パスワード登録



**OK** ボタンを押します。  
パスワード入力画面が表示されます。



【△】、【>】、【V】、【<】ボタンで4桁のパスワードを入力します。  
【△】ボタンで1が、【>】ボタンで2が、【V】ボタンで3が、【<】ボタンで4が入力されます。  
左の桁から順番に入力し、入力が終わると自動的に登録されます。

- パスワード入力画面で登録をキャンセルする場合は、パスワードを入力せずに【MENU】ボタンを押します。

## パスワードを設定する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

プロジェクターにパスワードを設定します。以降、電源を入れる際にパスワードの入力が必ずになります。

システム設定

パスワード設定



**切** パスワード機能を使用しません。

**入** パスワード機能を使用します。



- パスワードを設定すると、電源を入れたときにパスワードの入力画面が表示されます。ここで、【A】【V】【<】【>】ボタンで4桁のパスワードを入力して、正しければ投写が始まります。パスワードの入力を3回間違えると、電源が切れます。
- パスワードを解除する場合は、投写を終えてから電源コードを抜き、操作パネルの【MENU】ボタンを押しながら電源コードを差し込んでください。

## リモコンを設定する

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

2台のプロジェクターを使用する場合、リモコンが干渉しないようチャンネル設定を変更します。

システム設定

リモコン



**Ch1** 使用するプロジェクター側のチャンネルを選び、【OK】ボタンを押します。

**Ch2** 使用するプロジェクター側のチャンネルを選び、【OK】ボタンを押します。

## リモコン側のチャンネルを選ぶ

リモコンの【OK】ボタンを押しながら、【LIGHT】ボタンを3秒間押します。2つのボタンを押すたびにCh1（リモコンボタンが1回点滅）とCh2（2回点滅）が切り換わります。



- チャンネル設定は、リモコンとプロジェクター本体の両方を合わせて設定してください。
- リモコンでメニュー操作をしている場合は、【OK】ボタンを押してチャンネルを切り換えるとリモコンから操作できなくなるので注意してください。



## 表示言語を選ぶ

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

メニューに表示される言語を選びます。  
13カ国の言語が選べます。

## 工場出荷設定に戻す

デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

メニュー項目をリセットし、プロジェクターを  
工場出荷設定に戻します。

システム設定

言語



表示する言語を選びます。

English 英語

Deutsch ドイツ語

Français フランス語

Italiano イタリア語

Español スペイン語

Português ポルトガル語

Svenska スウェーデン語

Pycckий ロシア語

Nederlands オランダ語

中文简体 中国語(簡体)

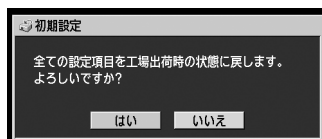
中文繁體 中国語(繁体)

한국어 ハングル語

日本語 日本語

システム設定

初期設定



**はい** プロジェクターのメニュー項目の  
設定がすべてリセットされます。

**いいえ** リセットを中止します。



- 初期設定を行っても、[ランプカウンター]、[言語] はリセットされません。
- 工場出荷時の設定については P86 を参照してください。



- 言語を選んで【OK】ボタンを押すと、すべての表示が指定の言語に変わります。

## ランプカウンターをリセットする



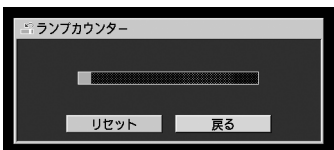
デジタルRGB | アナログRGB | ビデオ/Sビデオ | コンポーネント

ランプを交換した際に、ランプの交換時期を知らせるカウンターをリセットします。

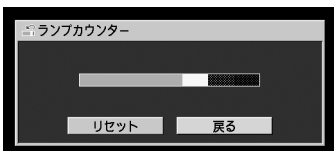
システム設定

▼  
ランプカウンター

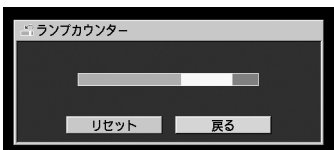
### ●使用時間が1000時間未満の場合



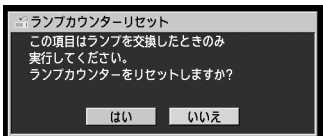
### ●使用時間が1000～1400時間までの場合



### ●使用時間が1400時間以上の場合



▼  
リセット



**はい** ランプカウンターをリセットします。

**いいえ** ランプカウンターのリセットを取りやめます。

❗ ランプを交換したとき以外はリセットしないでください。ランプの交換時期を正しく知らせることができなくなり危険です。

📖 ● ランプの交換方法についてはP77を参照してください。

# 日常のお手入れ

## プロジェクターを清掃する

プロジェクターは、ホコリなどがたまるないようにこまめに清掃してください。レンズ表面が汚れると、投写する映像に影響が出る場合があります。



- 電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、十分冷えるのを待ってから清掃や片づけを行ってください。やけどややけがの原因になる場合があります。
- 清掃は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電や火災の原因になる場合があります。

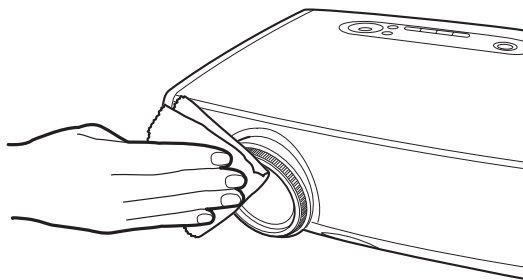
## 本体の清掃のしかた

本体や操作パネルの汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布を浸してよく絞り、ふき取ってから乾いた布で仕上げてください。



- ベンジンや揮発性の清掃液を使用すると、変質したり塗装がはげることがあります。化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書きをよくお読みください。
- レンズの清掃は、カメラ用に市販されているブローブラシやレンズクリーナーを使用してください。レンズの表面は傷が付きやすいので、固い布やティッシュペーパーなどは使用しないでください。



### 長期間ご使用にならないとき

レンズには必ずレンズキャップを取り付け、付属のキャリーバッグに入れて保管するようにしてください。

## エアフィルターの清掃と交換

本体の底面にある吸気口のエアフィルターは、内部のレンズやミラーをホコリや汚れから守っています。エアフィルターにホコリがたまると、空気の流れが悪くなり、内部の温度が上昇して故障の原因となります。



注意

- 電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、じゅうぶん冷えるのを待ってからエアフィルターの清掃や交換を行ってください。やけどやけがの原因になる場合があります。
- エアフィルターの清掃や交換は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電や火災の原因になる場合があります。
- エアフィルターの穴から内部にものを差し込まないでください。内部には高圧の部分や回転する部分があり、感電やけがの原因になります。

### エアフィルターの清掃

エアフィルターは、本体を逆さまにして、ツメを押してカバーを外し、取り出してから掃除機でホコリを吸い取ってください。

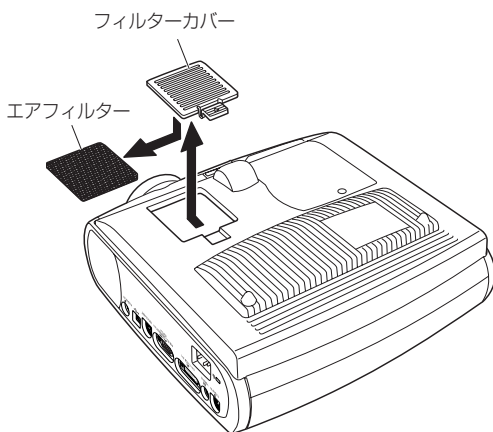
本体側面の排気口や、底面の吸気口のホコリは、掃除機のノズルを直接近づけて吸い取ってください。



- エアフィルターの清掃はこまめに行ってください。
- エアフィルターを清掃した後は、逆の手順で本体に取り付けてください。

### エアフィルターの交換手順

- 1 プロジェクターの電源を切り、電源プラグを抜いて1時間以上放置します。
- 2 ツメを押してフィルターカバーを外します。
- 3 エアフィルターを取り外します。
- 4 新しいエアフィルターをフィルターカバーの裏に取り付けます。
- 5 フィルターカバーを取り付けます。

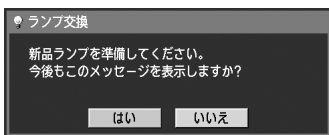


- エアフィルターの交換を行う際は、レンズにレンズキャップを取り付けてください。
- エアフィルターはていねいに扱ってください。破損するとフィルターの効果が損なわれます。
- エアフィルターは、ランプの交換時にいっしょに交換してください。
- エアフィルターのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。

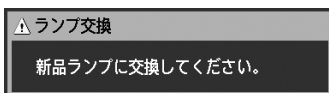
## ランプを交換する

ランプの使用時間が1400時間以上になると、プロジェクターの電源を入れるたびに、次の画面(2種類)が10秒間表示されます。

### ●使用時間が1400～1500時間までの場合



### ●使用時間が1500時間以上の場合



- 「今後もこのメッセージを表示しますか？」で [いいえ] を選ぶと、この画面は表示されなくなります。
- ランプの使用時間はシステム設定メニューの [ランプカウンター] で確認してください。(P74)



#### 注意

- ランプを交換するときは、本体の電源を切り、冷却ファンが停止してから電源プラグをコンセントから抜き、1時間以上放置してから行ってください。電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、やけどやけがををするおそれがあります。
- ランプ交換の際は、内部のガラス面などに触れないでください。投写の性能が下がるなどの原因になります。

## 交換用のランプについて

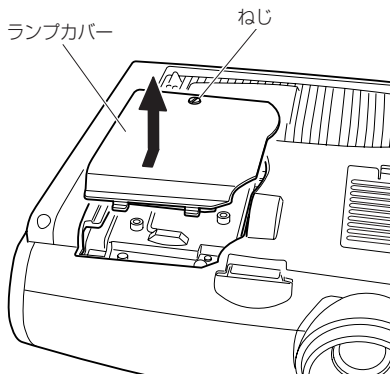
本プロジェクターでは、次のランプを使用しています。

### ランプの品番：RS-LP01

- ランプは、必ず指定のものをご使用ください。
- ランプのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。キヤノンのホームページからも購入できます。

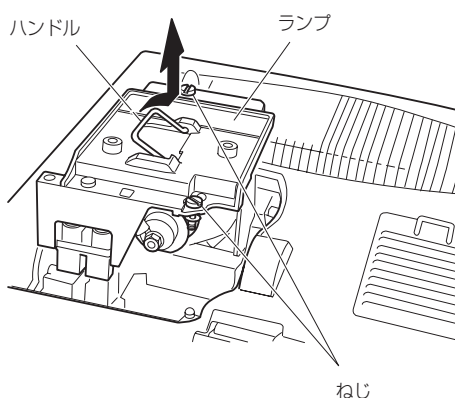
## ランプ交換手順

- 1 プロジェクターの電源を切り、電源プラグを抜いて1時間以上放置します。
- 2 マイナスドライバーでねじをゆるめ、ランプカバーを外します。



- 3 ねじ2本をゆるめ、ハンドルを起こしてランプを取り外します。

- 4 新しいランプを奥までしっかり押し込み、ねじ2本で固定します。  
※取り付け後、ハンドルは必ず倒してください。

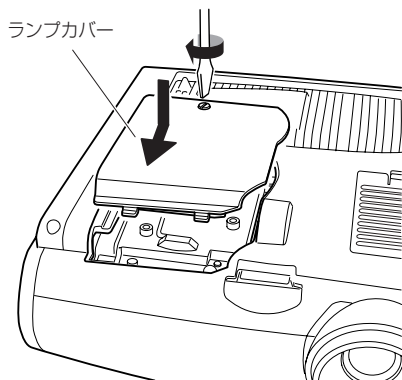


- 5 ランプカバーを取り付け、ねじをしめます。

- 6 電源を入れる。

- 7 メニューを表示し、[システム設定]の[ランプカウンター]を選ぶ。(P74)

- 8 [リセット]を選び、[はい]を選んで、ランプカウンターをリセットする。



# 困ったときには

## WARNINGランプの見かた

プロジェクターに異常が発生すると、操作パネル上のWARNINGランプが点滅し続けます。



- 電源を切り、プロジェクターの冷却が終了した後に、電源コードを抜いてから対処してください。

点滅の回数	内容	原因と対処
1回	温度の異常	プロジェクター内部の温度が何らかの異常で高温になっているか、外気温度が規定以上になっています。プロジェクター側の異常の場合は、設置や操作が正しく行われているか確認し、プロジェクターの電源をオフにしてしばらく内部を冷やしてから投写してください。再度、同じワーニングが出る場合は、本体の故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
2回	ランプの異常	ランプが切れました。新しいランプに交換してください。ランプを交換しても同じワーニングが出る場合は、ランプの駆動回路などの故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
3回	ランプ蓋の異常	ランプ蓋が開いています。ランプ蓋が正しく取り付けられているか確認してください。ランプ蓋に問題がない場合は、ランプ蓋検出スイッチなどの故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
4回	冷却ファンの異常	冷却ファンまたはその他の故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
5回	電源の異常	電源の一部が異常な電圧になっているか、その他の故障が考えられます。キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

## 困ったときのアドバイス

### 電源が入らない

原因	対処のしかた
電源コードが正しく接続されていない	電源コードがきちんと接続されていることを確認してください。(P26)
電源コードを接続した直後である	電源プラグを接続して【POWER】ボタンが赤く点灯するまでは、電源を入れることができません。(P27)
電源を切ったあと、すぐに入れようとしている	電源を切った後、約90秒間は電源を入れることができません。90秒以上経ってから、再度【POWER】ボタンを押してください。(P35)

### 画像が投写されない

原因	対処のしかた
接続ケーブルが正しく接続されていない	コンピューターやAV機器とプロジェクターとが正しく接続されていることを確認してください。(P23、42)
電源を入れて20秒経過していない	電源を入れると、約20秒間オープニング画面が表示されます。すぐに画像を投写する場合は、リモコンまたは本体操作パネルの【OK】ボタンを押してください。(P27)
AV機器から映像が送られていない	接続したデジタルカメラ、ビデオカメラ、DVD等で、映像の再生が行われていることを確認してください。(P47)
映像端子への接続や信号形式の選択が正しくない	映像端子への接続が正しく行われていることを確認してください。また、映像信号の形式が正しく選ばれていることも確認してください。(P28、47)
【NO SHOW】になっている	リモコンの【NO SHOW】ボタンを押してください。(P37)
コンピューター側の問題で映像が送られない	プロジェクター、コンピューターの順で電源を入れなおしてください。

### 音が出ない

原因	対処のしかた
オーディオケーブルが正しく接続されていない	オーディオケーブルの接続を確認してください。(P24、43)
【MUTE】になっている	リモコンの【MUTE】ボタンを押してください。(P40)



## 音が出ない (続き)

原因	対処のしかた
音量が最小に調整されている	リモコンまたは本体操作パネルの【VOL+】ボタンを押して音量を調整してください。(P40)
抵抗内蔵のオーディオケーブルが使用されている	オーディオケーブルは、抵抗なしのものをご使用ください。

## 映像が鮮明でない

原因	対処のしかた
フォーカスが合っていない	フォーカスを調整してください。(P30)
レンズキャップが外されていない	レンズキャップを外してください。(P90)
スクリーンまでの距離が近すぎる	スクリーンとの距離が適正であるか確認してください。約1.2m以上離れないと、ピントが合いません。(P20、85)
プロジェクターがスクリーンの正面に置かれていない	スクリーンに対して過度に斜め方向から投写していないか確認してください。ある程度の角度であれば、キーストーン調整で補正できます。(P21、31)
温度差の激しい場所に移動した	温度の低い場所から温度の高い場所に移動した場合、レンズにくもりが発生する場合があります。しばらくすると、くもりは消え、正常な画面の投写が可能になります。

## 映像が正しく表示されない

原因	対処のしかた
映像が上下、または左右逆に投写される	天吊り/リア投写の設定に誤りがあります。表示設定メニューで「反転表示」の設定内容を確認してください。(P61)

## ノートパソコンの画面が投写できない

原因	対処のしかた
接続ケーブルが正しく接続されていない	コンピューターの映像端子に正しく接続されていることを確認してください。(P23)
映像信号の形式が合っていない	映像信号の形式が正しく選ばれていることを確認してください。(P28、84)

## ノートパソコンの画面が投写できない (続き)

原因	対処のしかた
ノートパソコン側の外部モニターへの出力が正しく設定されていない	<p>ノートパソコンの外部モニターへの出力をオンに設定してください。外部モニターへの出力をオンにするには、パソコンのキーボードの[Fn]を押しながら、[LCD]または[VGA]と表記されたファンクションキーを押します。(P24)</p> <p>なお、キー操作はノートパソコンの種類によって異なります。詳しくは、ご使用のノートパソコンの使用説明書などでご確認ください。</p>
ノートパソコンの画面と同じ画像が表示されない	<p>ノートパソコンの画面設定が2画面(マルチディスプレイ)モードになっていないかを確認してください。</p> <p>2画面モードになっている場合は、ノートパソコン側の操作で出力設定を同時表示モードにしてください。</p> <p>なお、出力設定の方法はノートパソコンによって異なります。詳しくは、ご使用のノートパソコンの使用説明書などでご確認ください。</p>

## 電源が切れてしまう

原因	対処のしかた
吸気口または排気口がふさがれている	<p>吸気口または排気口がふさがれていないか確認してください。吸気口または排気口がふさがれていると、プロジェクター内部の温度が上昇し、本体保護のために自動的に電源が切れるようになっていきます。プロジェクターの温度が下がってから、吸気口または排気口をふさがないようにして、再度電源を入れてください。(P21、76)</p>
エアフィルターが汚れている	<p>底面のエアフィルターが埃などで目詰まりしていないか確認してください。</p> <p>目詰まりしている場合は、エアフィルターの清掃または交換を行ってください。(P76)</p>
ランプが破裂している (またはランプの異常)	<p>ランプが破裂していないか確認してください。</p> <p>ランプが破裂している場合は、ランプを交換してください。ランプが破裂していない場合でも、ランプの異常が考えられるので、予備のランプをお持ちの場合は交換してお試しください。(P12、P77)</p>

## 電源が切れてしまう (続き)

原因	対処のしかた
使用環境が適正でない	使用環境が5℃～35℃であることを確認してください。(P13)
上記に該当する原因が見つからないとき	故障している可能性がありますので、すみやかにキヤノンお客様相談センターまでご相談ください。(裏表紙)

## リモコンの操作ができない

原因	対処のしかた
電池が正しく入っていない/電池が切れている	電池が正しく入っているか確認してください。電池が入っている場合は、電池を交換してお試しください。(P17)
リモコンの届かない位置から操作している	プロジェクターのリモコン受光範囲内で操作しているか確認してください。 また、プロジェクターのリモコン受光部とリモコンの間に障害物がないことを確認してください。(P16)
リモコンの使用環境が適正でない	プロジェクターのリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていないか確認してください。(P16)
リモコンのチャンネル設定が合っていない	リモコンのチャンネル設定を切り換えていないか確認してください。システム設定メニューで「リモコン」の設定を確認できます。(P72)
キーロックでリモコンの操作を禁止している	「キーロック」でリモコンからの操作がロックされていないか確認してください。 システム設定メニューで「キーロック」を「切」に設定してください。(P71)

## ワイヤレスマウスの操作ができない

原因	対処のしかた
USBケーブルが正しく接続されていない	USBケーブルがプロジェクターとコンピューターで正しく接続されていることを確認してください。(P41)
マウスドライバがインストールされていない	コンピューター側でマウスが使用できるか確認してください。使用できない場合は、コンピューターにマウスドライバをインストールしてください。
コンピューター側の問題でマウスが認識されない	プロジェクター、コンピューターの順で電源を入れなおしてください。

# 付録

## 対応信号形式

本プロジェクターには、次の信号形式が用意されています。

コンピューターまたはAV機器が下の表のいずれかに対応していれば、オートPC機能などにより入力信号が自動的に判断され、正しい画像を投写することができます。

### アナログRGB

信号形式	解像度(ドット)	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
VGA	640×480	31.469	59.94
		31.469	70.09
		37.50	75.00
		37.861	72.81
		37.861	74.38
		43.269	85.01
SVGA	800×600	31.469	70.09
		34.50	55.38
		35.156	56.25
		37.879	60.32
		37.898	61.03
		38.00	60.51
		38.60	60.31
		46.875	75.00
		48.077	72.19
		53.674	85.06
XGA	1024×768	44.028	54.63
		46.897	58.19
		47.00	58.31
		48.363	60.00
		48.496	60.02
		56.476	70.07
		58.032	72.00
		60.023	75.03
		60.314	74.92
		60.994	75.77
		62.04	77.07
		63.478	79.35
		68.677	85.00
		64.196	70.39
		61.17	65.28
		61.846	66.00
		71.399	75.64
		SXGA	1152×864
1280×960	60.00		60.00
	62.50		58.63
	63.337		59.98
	63.364		59.95
	63.735		60.01
	63.791		60.18
	63.899		60.00
	63.981		60.02
	71.694		67.19
	76.97		72.00
	79.976		75.03
	81.135	76.11	
SXGA+	1400×1050	63.981	60.02
UXGA	1600×1200	75.00	60.00
MACLC13	640×480	34.967	66.60
MAC13	640×480	35.00	66.67
MAC16	832×624	49.725	74.55
MAC19	1024×768	60.248	75.08
MAC21	1152×870	68.681	75.06
MAC	1280×960	75.00	75.08
MAC	1280×1024	80.00	75.08

### デジタルRGB

信号形式	解像度(ドット)	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
D-VGA	640×480	31.469	59.94
D-SVGA	800×600	37.879	60.32
D-XGA	1024×768	48.363	60.00
D-SXGA	1280×1024	63.981	60.02
D-SXGA+	1400×1050	63.981	60.02

### コンポーネント

信号形式	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
480p	31.469	59.94
480i*	15.734	59.94
575p	31.250	50.00
575i*	15.625	50.00
720p	44.955	59.94
1035i*	33.750	60.00
1080i*	28.125	50.00
	33.716	59.94

\*インターレース信号です。

※表中の仕様は予告なしに変更する場合があります。

※ドットクロックが170MHz以上のコンピューター信号には対応していません。

## 画面サイズと投写距離の関係

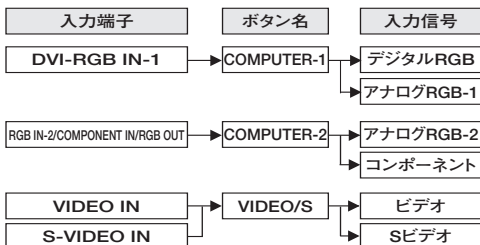
4:3のときの画面サイズ 型-幅×高さ(cm)	投写距離(m) ズーム最大	投写距離(m) ズーム最小	H1(cm)	H2(cm)	16:9のときの画面サイズ 幅×高さ(cm)
40型 81×61	2.0	1.2	55	6	81×46
50型 102×76	2.5	1.5	69	8	102×57
60型 122×91	3.0	1.8	82	9	122×69
70型 142×107	3.5	2.1	96	11	142×80
80型 163×122	4.0	2.4	110	12	163×91
90型 183×137	4.5	2.7	123	14	183×103
100型 203×152	5.0	3.0	137	15	203×114
110型 224×168	5.5	3.3	151	17	224×126
120型 244×183	6.0	3.6	165	18	244×137
130型 264×198	6.5	3.9	178	20	264×149
140型 284×213	7.0	4.2	192	21	284×160
150型 305×229	7.5	4.5	206	23	305×171
160型 325×244	8.0	4.8	219	24	325×183
170型 345×259	8.5	5.1	233	26	345×194
176型 358×268	8.8	5.3	241	27	358×201
180型 366×274	9.0	5.4	247	27	366×206
182型 370×277	9.1	5.5	250	28	370×208
190型 386×290	—	5.7	261	29	386×217
200型 406×305	—	6.0	274	30	406×229
210型 427×320	—	6.3	288	32	427×240
220型 447×335	—	6.6	302	34	447×251
230型 467×351	—	7.0	315	35	467×263
240型 488×366	—	7.3	329	37	488×274
250型 508×381	—	7.6	343	38	508×286
260型 528×396	—	7.9	357	40	528×297
270型 549×411	—	8.2	370	41	549×309
280型 569×427	—	8.5	384	43	569×320
290型 589×442	—	8.8	398	44	589×331
300型 610×457	—	9.1	411	46	610×343

# メニューの構成

工場出荷設定

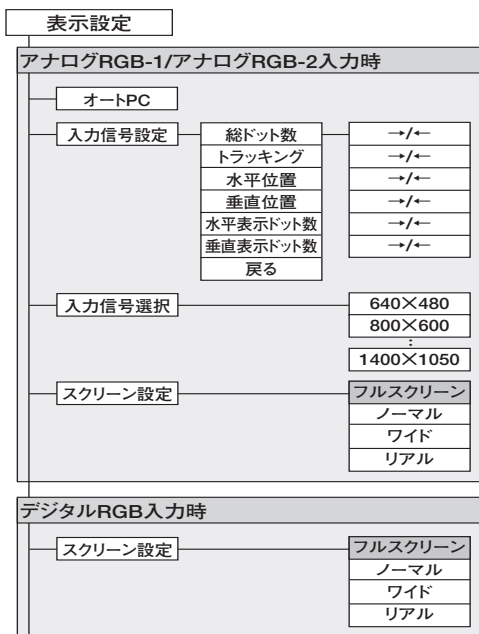
## コンピューター・AV機器の切り換え

投写する機器の入力端子を選び、リモコンや操作パネルのボタンで入力信号を切り換えます。

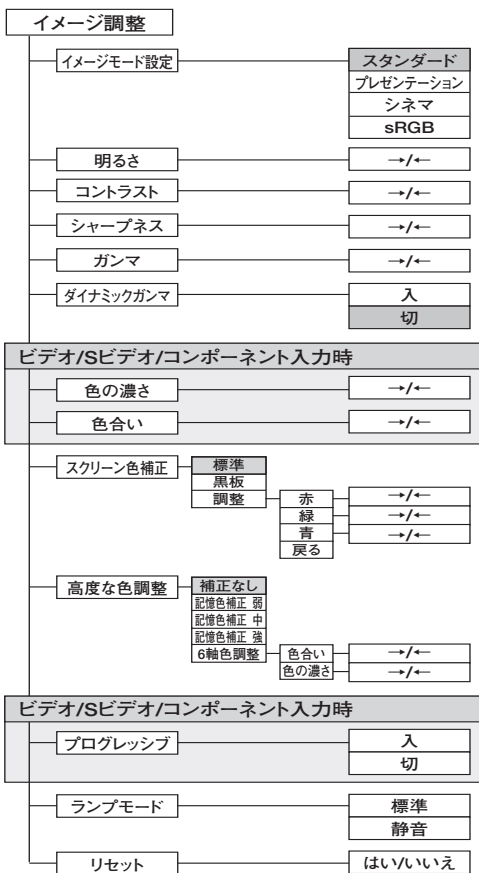


## メニューの内容

選ばれている入力信号によって、表示されるメニューの内容は違います。



☆ 続く



 : 工場出荷時の設定 (リセット後の設定)

# 用語集

## アナログRGB

Red(赤)／Green(緑)／Blue(青)各色の情報をアナログ値で送信する画像出力の信号方式で、コンピューターとカラーモニタなどをつなぐ標準的な方式です。コンピューターのアナログRGB出力端子と本プロジェクターのDVI-I/RGB IN-1端子またはRGB-2/COMPONENT IN/RGB OUT端子をモニター接続ケーブルで接続し、RGB IN-1端子のときは【COMPUTER-1】ボタンで「アナログRGB-1」、RGB IN-2端子のときは【COMPUTER-2】ボタンで「アナログRGB-2」を選んで投写します。

## デジタルRGB

ディスプレイの表示ドットごとの情報をデジタル値で送信する画像出力の信号方式です。アナログ変換を行わないため、画質の劣化などがありません。コンピューターのDVI出力端子と本プロジェクターのDVI-I/RGB IN-1端子を接続ケーブルで接続し、【COMPUTER-1】ボタンで「デジタルRGB」を選んで投写します。

## ビデオ

AV機器用の一般的な出力端子で、コンポジット出力端子(またはピン端子、RCA端子)とも呼ばれます。詳しくは、「コンポジット」の項をご覧ください。

## Sビデオ

輝度信号(Y)と色信号(C)を別々に送信する信号方式(YC分離信号)です。AV機器のS映像端子と本プロジェクターのS-VIDEO IN端子をSビデオケーブルで接続し、【VIDEO/S】ボタンで「S-VIDEO」を選んで投写します。

## コンポーネント

色信号(C)をB-Y色差信号とR-Y色差信号に分けて送信する信号方式で、コンポジットより高画質の投写ができます。AV機器のコンポーネント映像端子と本プロジェクターのRGB-2/COMPONENT IN/RGB OUT端子をコンポーネントケーブルで接続し、【COMPUTER-2】ボタンで「コンポーネント」を選んで投写します。

## コンポジット

輝度信号(Y)と色信号(C)を映像信号にまとめて送信するビデオ信号の方式です。AV機器のコンポジット出力端子(RCA)と本プロジェクターのVIDEO IN端子をビデオケーブルで接続し、【VIDEO/S】ボタンで「VIDEO」を選んで投写します。

## sRGB

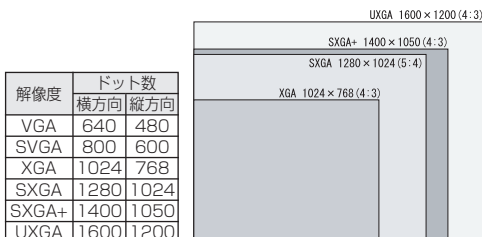
デジタルカメラやディスプレイ等で使用されている、色を表現する範囲(色空間)に関する国際規格。本プロジェクターでは、「イメージモード設定」で「sRGB」を選ぶことにより、sRGB規格に対応した映像を最適な画質で投写することができます。

## プログレッシブ

画像の表示形式で、1回の画面表示を1回の走査で行う方法です。1回の画像表示を奇数段と偶数段の2回の走査で行うインターレース信号であるビデオ信号を入力した場合には、プログレッシブ処理を行う必要があります。プログレッシブ機能をオフにした状態では、インターレース信号1回分の画像信号により1枚の画像表示を行うため、垂直解像度の低い画像となります。一方プログレッシブ機能をオンにした状態では、インターレース信号2回分の画像信号により1枚の画像表示を行うため、垂直解像度の高い高画質画像となりますが、動きの多い映像などでちらつきや横線が目立つ場合は、プログレッシブ機能をオフにしてください。

## 解像度

コンピューターのディスプレイ上に表示できるドット数(横方向×縦方向)をディスプレイの解像度とします。この解像度は、表示領域の広さ(情報量の多さ)を表しています。



解像度によるピクセル数の違い

接続するコンピューターで、画面の解像度の設定をSXGA+(1400×1050)にすると、本プロジェクターで高精細な投写が行えます。コンピューターの設定にSXGA+がない場合は、設定可能な最大の解像度を選んでください。

## ガンマ補正

画像データを投写するときに行う階調の調整方式です。ガンマ補正を行うことにより、明るくて消えている部分や暗くつぶれている部分の見え方を改善することができます。本プロジェクターには、手動でのガンマ補正機能のほか、自動的に適正なガンマ補正を行う、ダイナミックガンマ機能があります。

## DVI-I

デジタル映像信号の接続インターフェースのことで、デジタルデータをアナログに変換することなく、そのまま送受信できるため、信号劣化のない高画質が得られます。DVI-I(Integrated)コネクタは、デジタル信号用のDVIコネクタであると同時にアナログRGBの映像信号も取り扱うことが可能です。



# 製品の仕様

## プロジェクター本体

型名	SX50		
表示方式	3原色液晶方式		
光学方式	ダイクロミックミラー、偏光ビームスプリッターによる色分離・プリズムによる色合成方式		
表示素子	形式	反射型液晶パネル	
	サイズ/アスペクト比	0.7型×3/4:3	
	駆動方式	TFTアクティブマトリックス方式	
	画素数/総画素数	1,470,000(1400×1050)×3枚/4,410,000	
投写レンズ	ズーム比/焦点距離/F値	1.7倍ズームレンズ/f=22.0~37.0mm/F1.85~F2.5	
	ズーム/フォーカス方式	マニュアルフォーカス/マニュアルズーム	
	レンズシフト量	9:1(固定)	
光源	200W 超高压水銀ランプ		
画面サイズ(投写距離)	40~300型(1.2~9.1m)		
再現色数	1,6770,000色(フルカラー)		
明るさ*	2500ルーメン		
コントラスト比	1000:1(全白:全黒)		
周辺照度比*	85%		
音声出力	1W(モノラル)		
スピーカー	40×20mm×1		
走査周波数	水平:15~100KHz・垂直50~100Hz		
最大入力解像度/パネル表示解像度	1600×1200ドット(圧縮)/1400×1050ドット		
走査方式(コンポーネント)	1080i, 1035i, 720p, 575i, 575p, 480i, 480p		
カラーシステム(コンポジット, S映像)	NTSC, PAL, SECAM, NTSC4.43, PAL-M, PAL-N		
入出力端子	DVI-Iコネクタ(29ピン)	入力2系統(デジタルRGB, アナログRGB)	
	ミニD-sub 15ピン	入力2系統(アナログRGB, コンポーネント)/出力1系統(アナログRGB)	
	RCA	入力1系統(コンポジット)	
	ミニDIN4ピン	入力1系統(S映像)	
	ステレオミニジャック	入力1系統(音声)	
	USB(タイプB)	マウス制御用	
	ミニDIN8ピン	サービス専用	
入力信号	デジタルRGB	TMDS(Transition Minimized Differential Signaling)	
	アナログRGB	0.7Vp-p, 正極性、インピーダンス75Ω 水平・垂直同期:TTLレベル、負または正極性 G信号中のコンポジット同期:0.3Vp-p, 負極性、インピーダンス75Ω	
	ビデオ	映像:1Vp-p, 同期負、インピーダンス75Ω S映像:セパレートYC信号、Y:1Vp-p, 同期負、インピーダンス75Ω C:0.286Vp-p(バースト信号)、インピーダンス75Ω コンポーネント:セパレートY Cb/Pb Cr/Pr信号 Y:1Vp-p, 同期負、インピーダンス75Ω Cb/Pb:0.7Vp-p, インピーダンス75Ω Cr/Pr:0.7Vp-p, インピーダンス75Ω	
		音声	142mVrms, インピーダンス47KΩ以上
		騒音	37dB(ノーマルモード)、34dB(サイレントモード)
使用温度範囲	5℃~35℃		
電源	AC100V 50/60Hz		
消費電力	290W(ノーマルモード)、240W(サイレントモード)、6W(待機状態)		
本体寸法	幅284mm X 高さ96mm X 奥行286mm(突起物含まず)		
質量	3.9kg		
付属品	リモコン、リモコン用乾電池、電源コード、コンピューター接続ケーブル、USBケーブル、コンポーネントケーブル、キャリーバッグ、レンズキャップ、レンズキャップ用ひも、フェライトコア、使用説明書、クイックスタートガイド、保証書		

\* 出荷時における本プロジェクター全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911: 2003データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については付属書2に基づいています。

※液晶パネルの有効画素は99.99%以上です。投写中0.01%以下の点灯したままの点や、消灯したままの点が見られる場合がありますが、これは液晶パネルの特性で生じるもので故障ではありません。

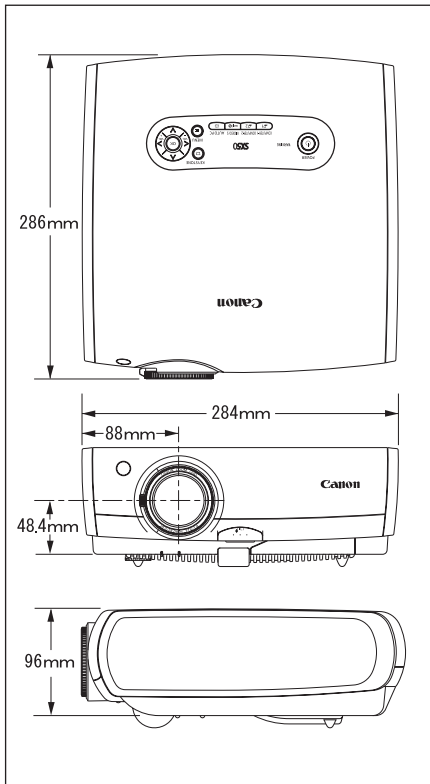
※長時間・連続使用する際は、光学部品の劣化を早めることがありますのでご注意ください。

※本プロジェクターはJIS C 61000-3-2適合品です。

## リモコン

電源	DC3.0V 単4形アルカリ乾電池2本使用
到達距離	約5m(受光部正面)
本体寸法	幅42mm X 高さ22mm X 奥行135mm
質量(本体のみ)	55g

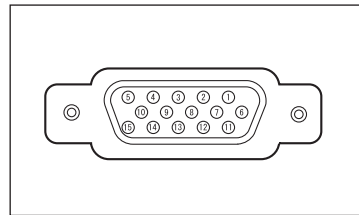
## 外觀図



## RGB IN-2/COMPONENT IN/RGB OUT (コンピューター入力/コンポーネント入力/モニター入出力端子)

コンピューター入力、モニター出力端子として動作します。モニター出力にすると、DVI-I端子に入力されたコンピューター(アナログ)信号を出力します。接続には、D-sub用コンピューター接続ケーブルをご使用ください。

ミニD-sub15ピン



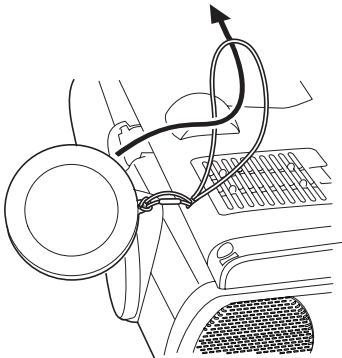
1	R	9	+5Vパワー
2	G	10	接地(垂直同期)
3	B	11	モニターID0
4	モニターID2	12	DDCデータ
5	接地(水平同期)	13	水平同期
6	接地(R)	14	垂直同期
7	接地(G)	15	DDCクロック
8	接地(B)		



- 端子仕様は、コンピューター入力/モニター出力とも同一です。

## レンズキャップの取り付けかた

レンズキャップの取り付けかたは次のとおりです。



本体底面の取り付け穴にひもを通してから、レンズキャップの穴にもひもを通します。

# 保証とアフターサービス

## ■この商品には保証書がついています

保証書は、本プロジェクターに付属しています。お買い上げ日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、内容をお読みいただき、大切に保管してください。

なお、保証内容については保証書に記載しております。

## ■修理サービスのご相談

修理サービスのご相談は、次ページのキャノンお客様相談センターにご相談ください。（ランプはキャノンホームページからもご購入いただけます。）

## ■修理を依頼される前に

79ページの「困ったときには」にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

## 【修理方法】

本商品は、引取修理させていただきます。お客様先にプロジェクターを引取にお伺いし、修理完了後にお届けいたします。また、ご希望により代替機の貸出サービスを準備しております。

※上記、引取サービスおよび代替機の貸し出しは、キャノンお客様相談センターにてサービスをご利用いただいた場合に適用されます。

※引取修理サービスは、国内のみのお取り扱いとなります。

## 別売品

- ランプ 品番：RS-LP01
- 天吊り金具 品番：RS-CL01
- 天吊りパイプ(360mm) 品番：RS-CL03\*
- 天吊りパイプ(550mm) 品番：RS-CL04\*

\*高い天井から本プロジェクターを吊り下げる場合に使用します。

\*\*天吊り用パイプと天吊り金具をつなぐための部品です。

詳しくは天吊り金具RS-CL01の使用説明書をご参照ください。

## ■修理を依頼されるときに

### ご連絡いただきたいこと

- お客様のお名前
- ご住所、お電話番号
- 商品の機番
- 故障の内容（できるだけ詳しく）

## ■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

## 〈修理料金〉

保証期間内	引取修理サービス	無償
	代替機貸出サービス	無償
保証期間終了後	引取修理サービス	有償
	代替機貸出サービス	有償

- 天吊りパイプ(760mm) 品番：RS-CL05\*
- 天吊りプレート 品番：RS-CL02\*\*
- Mac変換アダプター 品番：LV-AD02
- DVIデジタルケーブル 品番：LV-CA29

●長年ご使用の液晶プロジェクターの点検をぜひ！（熱、湿気、ホコリなどの影響や使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には、安全性を損なって事故につながることもあります。）

このような  
症状は  
ありませんか

- 電源スイッチを入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物が入った。
- その他異常や故障がある。



ご使用  
中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

お客さまメモ

品番	
お買い上げ年月日	年 月 日
お買い上げ店名	☎

Canon

お客さま相談センター（全国共通番号）



050-555-90071

[受付時間] (平日) 9:00~12:00 / 13:00~17:00

(土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9348をご利用ください。

※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

この使用説明書は、100%再生紙および揮発性有機化合物（VOC）ゼロのインキを使用しています。